

拾圓ノ内貳圓五拾錢ハ菊松儀兼テ江刺郡羽田村平民蓮村貞藏ヨリ兵作へ係ル貸借一件ニ對シ彼是周旋致セシ手数料トシテ菊松引去ル金七圓兵作へ相渡吳ソル様菊松ヨリ相頼マレ渡遣シ殘金五拾錢ハ自分并兵作菊松等ト一同飲食ニ遣拂ヒタリ

明治十年二月十五日仙臺裁判所盛岡支廳管内盛岡區裁判所ニ於テ左ノ處斷ヲ申渡シタリ

其方儀及川兵作ナル者偽證ヲ詐爲シ及川勇三郎ヲ欺キ金拾圓并六圓餘ノ借用證書ヲ取受クル後其情ヲ知り右偽證書ニ自分口入人ト記載有之ヲ承諾シ右金圓ノ内ヲ以テ兵作等ト共ニ飲食スル科雜犯律不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日申付ル

岩手縣大書記官岡部綱紀ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年二月二十二日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要領

左ノ如シ

今野養藏ノ擬律ノ内及川兵作偽證ヲ詐爲シ金拾圓以上詐取スル後情ヲ知り兵作等ト共々飲食スル科雜犯律不應爲輕キニ問ヒ懲役三十日トアリ然ル處我求刑スル養藏ノ所犯タルヤ兵作偽證ヲ詐爲シ未タ金拾圓以上詐取セサル時ニ方テ其詐證ニ養藏ノ名印ヲ取据ヘタル所以ヲ預メ菊池菊松ヨリ申明シ既ニ其承諾ノ上兵作菊松兩人ニテ詐欺取財ノ事ヲ行爲スルトニ供認セリ加之菊松勾置中加藤多七ニ接シ犯事彌縫ノヲテ周旋セリ然ルトキハ事前ニ其情ヲ知ル所アリ而事後ニモ其力ヲ盡シタル情狀タレハ固ヨリ兵作ノ從ト見据ヘサル謂レナシ然ルニ區裁判所ノ取調養藏ハ事後ニ其情ヲ承諾セル旨ヲ供認シ不應爲輕キニ問擬セル者ト雖モ他ニ證據トナスヘキ者ナラ唯該裁判所取調ニ係ル口供アル而已其供狀ニ依ルニ其偽證

ヲ製スルハ明治九年九月中ヨシテ而シテ其事情ヲ承諾スル時モ亦
明治九年九月中ト供認シアリ左スレハ果シテ其事後ニ情ヲ知ル者
ト見据ヘントスレハ右九月中ノ何日タル早晚ヲ確認セサルトキハ
復々其情ヲ知ルト否トノ結局ヲナシカタキ者ト見込タリ旁以テ不
當トスル所以ナリ

一養藏所犯ハ不應爲ニ問フヘキ者ニ非ス今之ヲ不應爲ニ問フトキ
ハ共犯罪分首從條第一項第二項ノ明文ト甚々相背馳セリ亦以テ不
當トスル所以ナリ

大木司法卿ハ明治十年四月十日ヲ以テ大審院詰檢事ニ達セラレシ旨
左ノ如シ

岩手縣下陸中國江刺郡田代村平民今野養藏犯罪事件處斷ノ儀ニ付
岩手縣大書記官岡部綱紀ヨリ別紙ノ通及上告候條相當ノ處分可致

候事

元權大檢事當時大審院詰檢事兼務岡内重俊ハ明治十年四月十三日ヲ
以テ大審院ニ處分ヲ求メシテ左ノ如シ

該犯法官ノ審訊ヲ受クルニ際シ及川兵作等詐僞取財ノ犯情事後始
テ聽知セシ旨供出スルヲ以テ其從トシテ科斷セラレスト雖モ菊池
菊松等ノ所供ニ據レハ該犯前供ヲ反異シ倖免ヲ求ムルノ狀アリ然
ルニ該件ニ付テハ各犯所供時日差謬シ之レニ加フルニ事主及川勇
三郎ノ告訴ト事實相反スルモノ亦多シ依テ盛岡區裁判所ノ裁判ハ
密問ノ未タ完カラサルモノナリトス

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

今野養藏カ口供中ニ金拾圓并六圓五拾錢ノ借用證書欺キ取シ處自

分口入人ニ認置タル段承諾致シ吳レル様申聞ルニ付承諾致シ遣シ
トアリテ當初及川兵作菊池菊松カ及川勇三郎ヲ詐欺スルノ情ヲ知
ラス事後ニ至リ始テ聞知スル者ノ如ク供述スルト雖モ明治九年九
月十八日及川勇三郎ヨリ岩手縣廳ヘ差出シタル告訴狀ニ右菊松ノ
示談ニマカセ元金拾圓ノ處ヘ五圓ノ増金ヲ以テ示談用濟ト定ラレ
而後菊池菊松及ヒ田代村昆野字ヲ養藏申聞ルニハ如斯談示ノ上ハ
加藤多七方ヘ罷越シ證券取戻シ吳レ可申間至急金策可致旨申聞ル
ニ付同月二十一日無據モ所持ノ耕地反別五畝歩同村及川直治方ヘ
永代金拾圓ニテ賣渡シ右金相拂ヒ殘五圓ノ處ヘ右菊松入費ト申テ
金壹圓五拾錢ヲ増シ金六圓五拾錢ノ證券ニ取結ハレ愈不審ニ存シ
云々トアリ又明治九年十二月十二日今野養藏カ盛岡警察所ニ於テ
爲シタル假口供ニ菊池菊松ナル者罷越シ相頼ムニハ加藤多七ヨリ

及川兵作ヘ金拾圓貸附及川勇三郎ハ代償人自分ハ口入人ノ謀書謀
判詐リノ證書ヲ持參斯ノ如キ證文ヲ以テ及川勇三郎ヘ迫リ金員受
取候ニ付其旨承知致シ同人ヘハ貴様口入ノ儀宜敷取計ヒ吳レル様
依頼有之宜カラサル儀トハ存タレトモ后ニ至リ自分ヘ迷惑相掛ル
儀モ無之ハ其段承知致スヘキ旨申答ヘ菊池菊松ニ於テ及川勇三郎
ヘ催促ノ未當金拾圓受取り内七圓ハ菊松ノ頼ニヨリ及川兵作ヘ相
渡シ貳圓五拾錢ハ同人取納メ殘リ五拾錢ハ關係人一同飲食ニ費シ
殘金六圓五拾錢ハ及川勇三郎ヨリ借用ノ證券請取リシ趣承知云々
トアリ右ヲ參觀スルトキハ養藏ハ兵作菊松カ詐欺ノ情ヲ知テ初メ
ヨリ其事ニ干與セシノ憑據アリトス然ルニ盛岡區裁判所ニテハ單
ニ養藏カ口供ヲ信認シテ右勇三郎告訴狀ト養藏カ假口供ノ憑據ア
ルヲ取ラサルハ果シテ何ノ故ナルヤ若シ之ヲ憑據トスルニ足ラス

トシ養藏結審ノ口供ヲ信實ナリトセハ別ニ證左ヲ舉ケサル可カラ
 ス然ルニ盛岡區裁判所ニ於テ養藏カ口供ノ外ニ他ノ證左アルヲ看
 サレハ獨リ養藏カ口供ノミヲ信シテ更ニ審理ヲ爲サス此ノ如ク證
 憑ト口供ト齟齬スルニ唯口供ノミニ依リ處斷シタルハ未タ審問ヲ
 盡サ、ル裁判ナリトス且又養藏カ口供中ニハ菊松ノ依頼ニ應シ偽
 證書ニ口入人タルヲ承諾シタルモ其詐取シタル金圓ヲ兵作ニ傳
 遞シタルモ並ニ九月中トアリ勇三郎告訴狀及ヒ養藏カ假口供ニハ
 八月中トアリ及ヒ依頼書ト題セル勇三郎ヨリ加藤多七ニ宛テ差入
 ル、タメ認メタル證書面ニハ明治九年八月十五日トアレハ前後月
 日ノ差異シテ孰チ眞トス可キヤ宜シク審訊ヲ盡シ以テ差謬ヲ正シ
 事實ヲ定ム可キニ其月日ノ牴牾シテ各同シカラサル者ヲ審問セス
 直ニ裁判ヲ爲シタルハ是亦審問ノ未タ盡サ、ルモノトス右ノ如ク

證憑ト口供ト踏合セス及ヒ各人ノ供狀月日ノ差異アリテ其審判ノ
 明白ナラサルハ審問ノ未タ盡サ、ル者ナリシテ其儘ニ處斷ヲ爲シ
 タルハ乃チ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十年二月十五日仙臺裁判所盛岡支廳管内盛
 岡區裁判所ニ於テ今野養藏ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ同支廳管内磐
 井區裁判所ニ於テ更ニ審判スヘキ旨ヲ達シタルニ付岩手縣大書記官
 岡部綱紀ニ於テハ磐井區裁判所ニ求判スヘシ
 第百六號

○判文竊盜ノ件 明治十年六月二日上告
 明治十年十月廿七日判決

福岡縣筑後國上妻郡永

野村平民

明治十年五月
滿二十四年

右庄平儀明治十年五月二十五日長崎裁判所福岡支廳管内久留米區裁
判所ニ於テ爲シタル口供ノ旨趣左ノ如シ

一自分儀絞油職渡世ノ者ニ付何方ヘソ雇ハレ度念意ニテ明治九年
十二月三十一日兼テ知己ノ西久留米村松野松次郎方ヘ參リ依頼
ニ及フ處同人入了諾致シ稼キ先有之迄ハ自分宅ヘ止宿罷在ル様申
聞ケ同人ハ他出致シ無程松次郎母モ飯櫃ノ中ヨリ金錢ヲ取出シ
自分ヘ留守居ヲ頼ミ洗湯ヘ參リ其跡自分壹人コテ留守致居候内
右金錢取出シタル箇所モ見認メ置圖ラヌ不良心ヲ生シ飯櫃ノ中
ヨリ金貳圓八拾錢盜取リ松次郎并母兩人トモ歸宿セサル内逃ケ
出所々徘徊申明治十年二月二十四日松次郎ノ告訴ニ依リ召捕ハ

レタリ

右ノ口供ニ憑リ明治十年五月二十九日長崎裁判所福岡支廳管内久留
米區裁判所ニ於テ左ノ處斷申渡ヲ爲シタリ

其方儀明治九年十二月三十一日松野松次郎母ヨリ依託ヲ受ケ一時
同人宅ヘ留守居中金錢竊取スル贓金壹圓以上ノ科賊盜律ニ依リ監
守盜ヲ以テ論シ懲役八十日申付ル

福岡縣八等警部藤本重威ニ於テ右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治十年六
月二日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要領左ノ
如シ

一該犯明治九年十二月三十一日筑後國三潯郡西久留米村松野松次
郎方ニ於テ同人母ヨリ一時ノ留守ヲ頼マン同人他出ノ際飯櫃中
ヨリ金圓ヲ取出スヲ見ルヤ初メテ其櫃中ニ金圓アルヲ知リ同人

ノ未ク歸宅セサルニ乘シ忽然盜念ヲ發シ右櫃中ニ在ル金貳圓餘
 ナ盜取逃走セシヲ以テ事主松次郎ノ告訴ニ因リ明治十年二月二
 十六日該犯ヲ捕得シ其五月二十二日ヲ以テ久留米區裁判所へ彈
 告セリ同裁判所ニ於テハ之ヲ賊盜律監守自盜條ニ依リ明治十年
 五月二十九日別紙宣告書ノ通り懲役八十日ニ處斷セリ謹テ同條
 ナ按スルニ凡ソ監臨主守自ラ監守スル處ノ財物ヲ盜ム者ハ首從
 ナ分タテ贓ヲ併セテ罪ヲ論シ竊盜ニ二等ヲ加フトアリ夫レ監守
 ト稱スル者ハ其主掌看守スル所ノ事物ニ就テ之ヲ謂フ該犯ノ如
 キハ所謂一時他人ノ留守居ヲ頼マルト雖モ其金圓ヲ監護スル
 ノ依託ヲ受クルニ非ス故ニ其監守セサル所ノ金圓ヲ竊取スルモ
 之ヲ監守自盜トナス可ラス宜シク凡盜ヲ以テ論シ懲役六十日ニ
 處斷スヘキモノト存候是該裁判ヲ不當トナシ破毀ヲ求ムル所以

ナリ

大木司法卿ハ明治十年七月十六日ヲ以テ大審院詰檢事ニ達セラレシ
 旨左ノ如シ

福岡縣平民池田庄平犯罪處斷ノ儀ニ付同縣警部藤本重威ヨリ別紙
 ノ通り及上告候因テ相當ノ處分可致候事

檢事犬塚盛蕪ハ明治十年十月二日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシ事左
 ノ如シ

該犯他人ノ寄託ヲ受ケ其留守ヲナス者ナレハ該家ノ財物ニ於テ監
 護ノ責メアル論ヲ俟タスト雖モ明治九年第七十四號布告改正雇人
 盜家長財物律及ヒ竊盜條例ノ設アル以上ハ竊盜ヲ以テ論スヘキモ
 ノトス仍テ久留米區裁判所ノ裁判ハ其當ヲ得サル者ト考量ス

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

庄平ハ松野松次郎母某ノ依頼ヲ受ケ一時ノ留守居ト爲リタルモノ
ナレハ雇人ト同視ス可カラス因テ監守自盜ヲ以テ論セス凡盜ヲ以
テ論スヘキノ犯罪ナリトス故ニ福岡支廳管内久留米區裁判所ニ於
テ監守自盜ヲ以テ論シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十年五月二十九日長崎裁判所福岡支廳管内
久留米區裁判所ニ於テ池田庄平ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ大審院ニ
於テ平翻スルヲ左ノ如シ

池田庄平

右松野松次郎母ノ依頼ヲ受ケ一時同人ノ留守居ト爲リ該家ノ財物
ヲ盜取科賊盜律竊盜條ニ依リ贓金壹圓以上

總役六十日

第百七號

○判文(告上不實ノ件)明治十年七月十二日上告
明治十年十月廿九日判決

宮城縣陸前國名取郡長

町村平民安吉二男

伊藤要吉

明治十年六月
三十三年八月

岩手縣陸中國閉伊郡釜

石村平民伊勢松二男

佐々木徳松

明治十年六月
十九年九月

右兩人儀明治十年六月二十九日仙臺裁判所盛岡支廳管内盛岡區裁判

所ニ於テ爲シタル口供ノ旨趣如左

伊藤要吉口供

自分儀明治九年七月中ヨリ鑛山釜石分局ノ人足ニ雇ハレ明治十年二月十二日人足世話方被申付時々支配罷在ル處兼テ工場ニ於テ人足共相用ユル擔棒五拾本程不足セシ旨御係リ原經夫殿へ申立タルヲ以テ買入レ方可取計旨申談ラレ然ルニ當節自分ニテ金入用ノ次第有之處些少ノ貯モ無之ヨリ不圖盜心ヲ生シ明治十年三月十九日人足ノ内陸中國岩手郡仁王村佐々木清太郎東中野村田子平次郎兩人ヲ欺キ官ヨリ御申付ノ旨ニテ釜石村地内鑛山釜石分局所轄字鈴子官山ヨリ杉ノ尺廻リヨリ尺五寸廻リマテ四拾本伐リ取ラセ擔棒五拾本ニ作ラセ此代金壹圓五拾錢ヲ以テ他ヨリ買入レタリト申偽リ已ニ上納致候處明治十年三月二十二日原經夫殿ヨリ曾テ納メ

シ擔棒ハ鈴子官山ヨリ伐リ取リタルヤ否尋問ニ及ハルト雖モ尙ホ盜伐ノ始末ヲ押包ニ閉伊郡甲子村佐々木松之助所有木ナル旨申答置キ明治十年三月二十四日閉伊郡釜石村佐々木德松へ盜伐ノ儀ハ申明サス自分取次ヲ以テ右松之助ヨリ鑛山釜石分局へ擔棒五拾本賣上候ニ付松之助ノ子ト申立擔棒代價受取ノ爲メ鑛山分局へ出頭致吳候様頼談ニ及フ處德松儀承諾ノ上其旨申偽リ代價受取人トシテ該局へ罷出ル處本人ナラテハ御下渡シ無之趣ニテ立戻リ明治十年三月二十六日該局ヨリ自分御召喚ヲ受ケ出局致候末岩手縣釜石警察分署へ拘引セラレタリ

一前條盜伐致候杉并右樹木ヲ以テ製造セシ擔棒共此度御吟味ノ上代ニ積リ杉四拾本ハ三圓六拾錢擔棒五拾本ハ壹圓拾錢差引シテ金貳圓五拾錢ノ減損ニ相成右擔棒代價ハ未タ御下渡ニ不相成候

一自分ハ幼年ノ折南材木町松浦市太郎方へ養子ニ罷越成長ニ及ヒ
 病身ノ爲メ多ク實家伊藤安吉方へ參リ居明治二年十二月日失念實
 家ヨリ擅出シ志田郡古川驛ニ於テ土方稼致居ル内同驛小形屋喜三
 郎方ニ寄留致居ル陸中國閉伊郡釜石村佐々木倉松長女「マツ」下馴染
 明治八年六月中「マツ」同道ニテ釜石村へ相越内々右倉松方ノ養子
 ト相成リ佐々木ノ姓ヲ名乗候へ共御糺ノ節ハ松浦要吉ト申立ツル
 處此度原籍御取調ノ上自分家出後養家離縁ニ相成居候段承知致ス

佐々木徳松口供

自分儀明治十年三月二十四日官城縣仙臺南材木町伊藤要吉申聞ニ
 ハ自分甲子村佐々木松之助ノ子ト申立釜石鑛山分局へ出頭致シ杉
 擔棒代價受取吳レヘキ旨ノ依頼ヲ受ケ候ニ付事由精シク相尋ルニ

要吉申聞ニハ兼テ甲子村松之助ト云者ヨリ鑛山分局へ杉擔棒五拾
 本要吉世話致シ賣上置候處松之助不在ニ付代價受取ニ差問候間松
 之助ノ子ト申立代價受取吳レヘキ旨押シテ頼談ヲ受ケ候處素ヨリ
 右分局ヨリ御下渡可相成金員ナレハ何人ニテモ受取トシテ出頭致
 候ハ、難ナク御下渡可相成ト存シ候ヨリ惡敷事トハ存シナカラ其
 頼談ニ任セ甲子村松之助ノ子佐々木徳松ト詐稱シ同日釜石鑛山分
 局へ出頭代價御下渡ノ儀申出候處本人ニ無之テハ御下不相成旨御
 談ニ付立歸其旨要吉へ申聞外何等ノ儀モ一切心得不申候事
 右ノ口供ニ依リ明治十年七月六日仙臺裁判所盛岡支廳管内盛岡區裁
 判所ニ於テ左ノ處斷申渡ヲ爲シタリ

伊藤要吉宣告書

其方儀明治二年十二月中本籍ヲ脱シ二年以外ニ及フ科戸婚律逃亡

條ニ依リ懲役八十日又官林ヲ盜伐スル贓金壹圓以上賊盜律竊盜條ニ依リ官物ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役七十日右盜伐スル木材ヲ以テ製造セシ品ヲ官ニ賣納シ盜情ヲ包藏セン爲メ他人ヨリ賣納セシ旨ヲ以テ佐々木德松ニ囑托シ同人ヲ佐々木松之助ノ子ト詐稱セシメ賣納ノ代價ヲ請取ラントスル科雜犯律不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日右三罪ノ内一ノ重キ逃亡罪ヲ科シ懲役八十日申付ル

但擔棒五拾本ハ追徴ス

佐々木德松宣告書

其方儀明治十年三月中伊藤要吉ノ囑托ヲ受ケ佐々木松之助ノ子ト詐稱シ鑛山釜石分局ヨリ賣納物ノ代價ヲ請取ラントスル科雜犯律不應爲條不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日可申付處從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役二十日申付ル

岩手縣五等警部竹内直養儀右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治十年七月十二日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

鑛山釜石分局雇丁宮城縣第二大區 陸前國名取郡長町村平民安吉二男伊藤要吉儀明治十年三月十九日同局所有山ノ杉樹四拾本ヲ盜伐シ陸中國閉伊郡甲子村松之助ヨリ買入タリト詐リ同局ニ賣渡シ陸中國閉伊郡釜石村伊勢松二男佐々木德松ニ囑シ右松之助ノ子ト詐稱シ同局ニ出頭其代價ヲ請求セシメタル按件發覺シ其推問中逃亡ノ罪モ發露シタルニ付明治十年五月二十八日仙臺裁判所盛岡支廳管内盛岡區裁判所ヘ求刑セリ同裁判所ニ於テ明治十年七月六日要吉ハ本籍ヲ脱シ二年以外ニ及フ科戸婚律逃亡條ニ依リ懲役八十日官林ヲ盜伐スル贓金壹圓以上懲役七十日其材ヲ官ニ賣リ盜贓ヲ包

藏セシ爲メ佐々木徳松ヲ佐々木松之助ノ子ト詐稱セシメ其代價ヲ
 請取ラントスルハ雜犯律不應爲輕キニ問ヒ懲役三十日右三罪ノ内
 一ノ重キ逃亡罪ヲ科シ懲役八十日徳松ハ從タルヲ以テ要吉ニ科ス
 ル不應爲輕キ一等ヲ減ス懲役二十日ノ裁判ヲ言渡シタリ右裁判ニ
 服セス上告スルコト即日囚人ニ達シ本裁判ノ破毀ヲ求ムル趣意左
 ノ如シ

第一條

伊藤要吉ノ口供ニ依ルニ金員不自由ノ折柄幸ニ擔棒買入ノ事ヲ命
 セラレタルニ付不圖盜心ヲ生シ云々擔棒五拾本ニ作ラセ代金壹圓
 五拾錢ニテ買入レタリト詐リ上納シタリト云フトキハ官樹ヲ盜伐
 シ又其代價ヲ欺取セントスルノ念アリテ其ノ伊勢松二男佐々木徳
 松ヲ佐々木松之助ノ子ト詐ラセ鑛山分局ニ出頭シ代價ヲ請求セシ

メタルハ其詐取ノ事ヲ果サントスルノ情ニ出テ未タ其財ヲ得サル
 者ニシテ其犯ス所ハ詐欺取財ノ未得財ト上告不實ノ二事ナリ其二
 事ノ中詐欺未得財ハ竊盜未得財ニ准シテ論シ懲役四十日上告不實
 ハ改定律例第二百四拾七條ノ末段ニ擬シ懲役八十日ニ該レリ徳松
 ノ鑛山分局ニ出頭シ不實ヲ上告シタル詐欺取財ノ情ヲ知ラス情狀
 ニ於テ原諒スヘキ所アリト雖モ仍ホ要吉ノ從ト爲シ改定律例第二
 百四拾七條ニ擬セサルヲ得ス凡ソ刑法ニ觸ル、ノ行事ヲ爲ス者皆
 不應爲ニ非サルハナシ然リト雖モ雜犯律ニ開載スル所ノ不應爲條
 ナル者ハ其餘ニ明記スル如ク律例ニ正條ナクシテ情理ニ於テ爲ス
 ナ得應カラサル事ヲ爲ス者ヲ擬斷スルノ法律ニシテ本按ノ如ク律
 ニ正條アル者ヲ判決スル所以ノ者ニ非スト存候然ルニ盛岡區裁判
 所ニ於テ要吉ノ不實ヲ上告スルヲ盜情ヲ包藏セン爲メト認メ其犯

狀ヲ不應爲條ニ擬シタルハ法律ニ適セサル者ト見込候

第二條

伊藤要吉ハ原ト陸前國名取郡長町村平民伊藤安吉二男ニシテ同國宮城郡仙臺南材木町松浦「カチ」ノ養子トナリ其後病氣ノ爲メ實家ニ於テ保養中明治二年十二月村元擅出シ明治五年正月離縁セラレ其實家ニ復籍シタルコトハ本犯ノ口供及ヒ安吉姪伊藤善八ノ申立ニ於テ判然タリ然ルニ盛岡區裁判所ニ於テ陸前國宮城郡仙臺南材木町平民安吉二男伊藤要吉ト申渡シタルハ聽斷ノ定規ニ乖ク者ト存候

第三條

該裁判不服ノ次第前條ノ通ナルコト付上告手續第三十六條ニ隨ヒ處分アラソコトナク

明治十年八月三十日大審院詰兼務檢事犬塚盛龜司法卿ノ達ヲ受ケ大

審院ニ處分ヲ求ムルコト付更ニ左ノ意見ヲ付シタリ

該犯要吉ノ所爲官林ヲ盜伐シ德松ヲシテ松之助ノ子ト詐稱セシムルハ俱ニ詐欺取財中ノモノト雖モ概シテ詐欺取財ノ術策トナシ之ヲ詐欺取財ノ未得財モノト同視スヘカラス必ス其官林盜伐及ヒ德松ヲシテ松之助ノ子ト詐稱セシムル告上不實ノ罪ヲ分析問ハサルヲ得ス故ニ二罪俱發例ニ依ルニ告上不實ノ罪ヲ重シトス然ルニ逃亡罪ト併發シ罪等シキニヨリ一ノ告上不實ノ罪ヲ論スヘキ者タリ德松ハ其情ヲ知ラスト雖モ要吉ノ依託ヲ諾シ松之助子ト詐稱スルモノ共ニ告上不實ノ罪ヲ免カレス故ニ德松ハ從トシテ論シ仍ホ情法ヲ酌量シテ數等ヲ減スヘキ者ト考量ス依テ盛岡區裁判所ノ裁判ハ法律ニ違フ者トス且要吉カ原籍分明ナルニ謂レナキ原籍ヲ記載シ裁判宣告シタルハ聽斷ノ定規ニ違フ者トス

右ニ付大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルコト左ノ如シ

辨明

伊藤要吉カ官林ノ木ヲ盜伐シタルハ盜田野穀麥條ニ擬シ竊盜ニ準
 シテ論シ贓金壹圓以上官物ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役七十日官ヲ
 詐欺シテ財ヲ取ラントシ未ダ財ヲ得サルハ詐欺取財條ニ依リ竊盜
 ニ準シテ論シ懲役四拾日佐々木徳松ヲシテ松之助ノ子ト詐稱セシ
 ムルハ改定律例第二百四十七條上ニ告クルニ詐テ實ヲ以テセサル
 事情輕キ者ニ依リ懲役八十日本籍ヲ脱シ二年以外復歸セサルハ逃
 亡條ニ依リ懲役八十日右ノ四罪併發スルヲ以テ二罪俱發以重論條
 ニ照シ一ノ重改定律例第二百四十七條上ニ告ルニ詐テ實ヲ以テセ
 ムル事情輕キ者ニ依ル可キ者トス又佐々木徳松ハ要吉ノ強テ頼ム
 ニ從ヒ已ムコトヲ得ス松之助ノ子ト詐稱スルヲ以テ改定律例第二百

四十七條後項ニ依リ要吉ノ從ト爲シテ論シ其人ノ強請ニ應シ己カ
 爲ニスルコトナキ事情原諒ス可キ所アルヲ以テ酌量輕減スルヲ適當
 ナリトス然ルニ仙臺裁判所盛岡支廳管内盛岡區裁判所ニ於テ改定
 律例第二百四拾七條ノ正文ニ依ラヌシテ雜犯律不應爲ニ問ヒシハ
 適當ノ裁判ニ非ラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ仙臺裁判所盛岡支廳管内盛岡區裁判所ノ裁判ヲ
 破毀シ更ニ大審院ニ於テ之ヲ平翻スル事左ノ如シ

伊藤 要吉

右本籍ヲ脱シ二年以外復歸セサルハ逃亡條ニ依リ懲役八十日官林
 ノ樹木ヲ盜伐セシハ盜田野穀麥條ニ擬シ竊盜ニ準シテ論シ贓金壹
 圓以上官物ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役七十日盜伐シタル材ヲ以テ

製造セシ擔棒ヲ他人ヨリ官ニ賣納致シタル趣ニ詐リ代價ヲ受領セ
ントセシハ詐欺取財條ニ依リ未得財ヲ以テ懲役四拾日佐々木徳松
ニ強請シ佐々木松之助子ト詐稱セシメ賣納ノ品代ヲ受取ントスル
ハ改定律例第二百四十七條上ニ告ルニ詐テ實ヲ以テセサル事情輕
キ者ニ依リ懲役八十日右四罪ノ内二罪俱發以重論條ニ照ラシ一ノ
重キ改定律例第二百四十七條後項ニ依リ

懲役八十日

但擔棒五十本ハ追徴ス

佐々木 徳松

右伊藤要吉ノ強請ニ從ヒ佐々木松之助ノ子ト詐リ官ニ申出ル科改
定律例第二百四十七條上ニ告ルニ詐テ實ヲ以テセサル事情輕キ者
ニ依リ伊藤要吉ノ從テ以テ論シ一等ヲ減シ情法ヲ酌量シ四等ヲ減

シ通シテ五等ヲ減シ懲役三十日贖ヲ聽ス

贖罪金貳圓貳拾五錢

第百八號

○判文(賭博自首ノ件)明治十年四月廿八日上告
明治十年十月三十一日判決

兵庫縣丹波國氷上郡谷

川村平民

奥 田 友 八

明治十年四月
三十五年十月月

上 田 市 造

明治十年四月
二十七年六月月

村 上 柳 吉

明治十年四月
三十二年四月月

明治十年四月
二十九年一ヶ月

右奥田友八外三名賭博罪ヲ犯シ明治十年四月十八日神戸裁判所ニ於テ友八等ノ爲シタル口供ノ要旨如左

奥田友八口供

自分儀明治十年三月十二日午後七時頃同村上田市造宅ニ於テ同人外三人都合五人ニテ錢五厘賭ケ丁半ト申勝負致シ居候處ニ同八時頃巡查兩人立越サレ打驚キ其場逃走シ所々ニ潜伏罷在ルト雖モ逆モ遁レカタクト存シ明治十年三月十九日歸村組長ニ罷出右心得違ヒノ段相詫則組長代藤本龜造同道柿芝分署ニ罷出タリ
一賭博物品ハ御取揚ケ相成タリ

上田市造外二名口供

自分共儀明治十年三月十二日午後七時頃市造宅ニ於テ同村上田又彌奥田友八都合五人手合錢五厘賭ケ丁半ト申ス勝負致シ居候處ニ巡查兩人立越サレ自分共ハ夜中ノ一故宅外ニ隠レ居ルト雖モ逆モ遁レサル儀ト申合セ銘々組長ニ罷出右心得違逃走ノ段相詫出組長俱々區務扱所ニ罷出タリ

一賭場物品ハ御取揚相成タリ

右ノ口供ニ依リ奥田友八外三名儀明治十年四月二十七日神戸裁判所ニ於テ左ノ處斷ヲ受ケタリ

奥 田 友 八

其方儀明治十年三月十二日夜同村上田市造宅ニ於テ同人外三名俱々錢賭ケ勝負ヲ爲ス場ニ巡查立越スヲ見受逃走シ後悔悟自首スルヲ以テ逃走ノ加等罪ヲ免シ雜犯律賭博條ニ依リ杖八十申付ル

上田市造

其方儀明治十年三月十二日夜自宅ニ於テ同村上田又藏外三人俱々
錢賭ケ勝負ヲ爲ス場ニ巡査立越スヲ見受逃走シ後悔悟自首スルヲ
以テ逃走ノ加等罪ヲ免シ雜犯律賭博條ニ依リ杖八十申付ル

村上柳吉

其方儀明治十年三月十二日夜同村上田市造宅ニ於テ同人外三名俱
々錢賭ケ勝負ヲ爲ス場ニ巡査立越スヲ見受ケ逃走シ後悔悟自首ス
ルヲ以テ逃走ノ加等罪ヲ免シ雜犯律賭博條ニ依リ杖八十申付ル

田中多八

前同文

兵庫縣權令森岡昌純ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年四月二
十八日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル右上告狀ノ要領左

ノ如シ

第一條 上田市造外三名ノ如キハ官ノ追捕ヲ恐レテ其場ヲ逃走セ
シ耳ニテ拒捕ノ念ナキハ判然タリ綱領中捕亡律罪人拒捕條ニ凡罪
ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒クモノハ各本罪上ニ二等ヲ加ヘ云々トア
ルハ之レ逃走拒捕一申講ニシテ兩項ニ非ラス各字ハ其所犯ノ各罪
ヲ指スモノナラン手果シテ然ラハ單ニ逃走ノ事ヲ以テ加等スルハ
不當ナラン

第二條 初メ該犯ヲ糺治スルニ組長ヨリ説諭ノ末組長召連戸長役
場ニ出頭シタル旨申立ルニヨリ自首ニ非ラサルヲ以テ求刑セリ然
ルニ神戸裁判所審問上組長及本犯共ヨリモ自首セシ旨申立タリ果
シテ之ヲ自首ト確認セハ之レ賭博本罪ヨリ減等シテ可ナルヘシ其
故ハ凡罪犯ノ捕獲ヲ恐レ逃走スルハ常情ニシテ一旦逃走スルモ眞

必悔悟シ自首セシモノヲ現獲者ト同一ニ處スルヲ得ス然ルチ前項ノ如ク加等スヘカラサル加等罪ヲ加ヘ悔悟自首シテ本罪ヲ減等スヘキヲ減セス加等スヘカラサルノ加等罪ヲ免シタルハ不當ノ裁判ト見認メ依テ上告ス

大木司法卿ハ明治十年五月十四日ヲ以テ大審院檢事ニ達セラレシ旨左ノ如シ

兵庫縣平民奥田友八外三名賭博犯罪處斷ノ儀ニ付別紙ノ通り同縣權令森岡昌純ヨリ及上告候右ハ賭博致シ居ル處ヘ巡查立越シタルニ驚キ一時逃去リ追テ自訴シタル者ナレハ聞捕自首ヲ以テ論スヘキモノトス因テ相當ノ處分可致候事

當時大審院詰權大檢事岡内重俊ハ明治十年五月四日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシテ左ノ如シ

該犯官ノ追捕ヲ恐レ遁逃スル者素ヨリ拒捕ノ念アルニ非レハ加等スヘキノ罪ナシトス尋テ自首スルヲ以テ聞捕自首ヲ以テ論スヘキ者ナリ仍テ森岡兵庫縣權令意見ノ通神戸裁判所ノ裁判ハ法律ニ違フ者トス

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

罪人拒捕條ニ凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒ク者ハ各本罪上ニ二等ヲ加フトアルハ其重ンスル所拒捕ニアリテ逃走ニアラストス且又各本罪上ニ二等ヲ加フトアルハ其所犯ノ各罪ヲ指スモノトス奥田友八外三名ノ口供ニ錢五厘賭丁半ト申勝負致シ居候處ヘ巡查立越サレ打驚キ其場ヲ逃走シ所々潜伏スト雖モ到底遁レカタキチ歸村組長ヘ罷出組長同道柿芝分署又ハ區務扱所等ヘ罷出タリトアリ是ニ依テ之ヲ觀レハ友八等ノ逃走セシハ現場巡查ノ入り來ルニ驚キ

恐ル、モノニシテ他ニ拒捕ノ狀ナキコトハ判然タリトス左スレハ友八等カ自首ハ改定律例第五十九條官ノ捕獲セントスルヲ聞キ自首スル者ヲ以テ論スヘキモノトス如何トナレハ友八等ノ口供ニ其場ヲ逃走所々潜伏スト雖モ到底遁レカクキヲ知り歸村組長へ罷出云々トアルノミナラス村方ノ組長大木佐一郎外二名ヨリ明治十年四月十七日神戸裁判所へ差出シタル手續書ニ於テモ奥田友八等ノ口供ニ符合シ殊ニ同人共心得違ヲ悔悟シ自首致シ吳レヘク旨申來リ依テ召連レ自首シタリトアルヲ以テナリ然ルヲ神戸裁判所ニ於テ逃走ノ後自首スルヲ以テ逃走ノ加等罪ヲ免シ本罪杖八十ニ處斷シタルハ不適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十年四月十八日神戸裁判所ニ於テ奥田友八

外三名へ申渡シタル裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ平翻スルコト左ノ如シ

- 奥 田 友 八
- 上 田 市 造
- 村 上 柳 吉
- 田 中 多 八

右財物ヲ賭シ博戯ヲ爲ス者雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ニ處スヘキ處現場巡查ニ見認メラレ遁走ノ後ヲ遁レ難キヲ知リテ自首スル者改定律例第五十九條官ノ捕獲セント欲スルコトヲ聞テ自首スル者ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ

各懲役七十日

第百九號

〇判文(懲役限内逃走竊盜再犯ノ件)明治十年八月廿七日上告
明治十年十一月六日判決

生所不詳

久右衛門

明治十年八月
二十三年二月

右久右衛門カ明治十年八月十四日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ爲シタル口供ノ要領左ノ如シ

- 一 明治十年三月二十三日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ竊盜犯罪追捕ノ際拒捕スルヲ以テ本罪ニ加ニ等懲役九十日ニ處セラル
- 一 自分儀右科ニ依リ服役中明治十年三月廿八日ノ拂曉福岡縣士族暴舉ノ節刀ヲ帶タル者二三人懲役場ニ亂入破却致セシニ付恐怖ノ餘リ隙ヲ窺ヒ逃出シ宗像郡ヲ志シ立越ル途中間モ無シ博多石堂橋ニ於テ巡查ニ差押ヘラレ縣廳仕夫申付ラレ警察署ニ於テ水汲等致シ居ル内三月三十日尙又邊リニ人ノ居合セサル透テ窺

ヒ警察署北側ノ板壁ヲ越ヘ逃走致シタリ

- 一 明治十年三月三十日ノ夜柏屋郡山田村河邊千兵衛宅ニ恐ヒ入り股引壹ツ外三品盜取シタリ

一 四月中日不覺宗像郡上八村名前不知者宅土藏ニ恐ヒ入り水餅少々外壹品盜取シタリ

一 四月中日不覺宗像郡鐘崎村名前不知農家ニ恐ヒ入り庖丁壹本外壹品盜取シタリ

一 四月中日不覺宗像郡在自村金毘羅社拜殿ニ於テ參籠人ノ財布一ツ盜取在中ノ品相改メタル處金八拾錢外三品有之

一 四月中日不覺宗像郡神添村通行ノ際驟雨ニ逢ヒ難澁ノ折柄路傍

名前不知宅戸口側へ立テ掛ケ有之雨傘壹本盜取シタリ
一四月中宗像郡鐘崎村名前不知宅へ忍ヒ入り庖丁壹本外壹品盜取
シタリ

右盜金ノ内拾三錢九厘ハ所々ニ於テ費用致シ其餘六拾六錢壹厘外
品々共所持セシ處今般取揚ケノ上代積リ金壹圓拾六錢六厘盜金共
合金壹圓九拾六錢六厘ニ相成候

右ノ口供ニ依リ明治十年八月二十日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ
裁判ヲ申渡シタリ

其方儀竊盜ノ科ニ依リ懲役九十日處刑中明治十年三月二十八日ノ
拂曉福岡縣暴徒懲役場へ亂入ノ際逸出スル途中ニ於テ巡查ヨリ差
押ヘラレ縣廳内ニ於テ使役中三月三十日隙ヲ窺ヒ逃走及フノミナ
ラス粕屋郡山田村河邊千兵衛方其外六ヶ所ニ於テ竊盜スル贓金壹

〇ッ

圓以上ノ科改定律例第二百九十九條ニ依リ棒銀一日ノ上從新拘役
一百六十日申付ル

福岡縣九等警部補治人ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年八月
二十七日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要領左
ノ如シ

該犯ハ明治十年三月二十三日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ竊盜初犯
ノ本罪ニ拒捕ノ二等ヲ加ヘ懲役九十日處斷ヲ受ケ服役中同月二十
八日福岡士族暴舉ノ際暴徒懲役場ニ亂入スルニヨリ恐怖ノ餘リ一
時懲役場ヲ逸出シタレモ日ヲ越エヌ福岡警察署ニ於テ雜事使役中
同月三十日透ヲ窺ヒ逃亡シ筑前國粕屋郡山田村河邊千兵衛方外六
ヶ所ニ於テ盜業相働クヲ捕得密糾ノ上明治十年七月二十五日長崎
裁判所福岡支廳へ求刑及ヒシ處該廳粕屋郡山田村河邊千兵衛方外

六ヶ所ノ盜贓金壹圓以上ノ科改定律例第二百九十九條ニ依リ棒鎖一日ノ上從新拘役百六十日申付タリ然ルニ宣告文ニヨレハ現犯ノ盜贓金壹圓以上例圖ニ照スニ懲役六十日之ヲ原犯ノ懲役九十日ニ合算スルモ尙ホ百五十日ニ過キサルヲ百六十日ニ處斷シタル八十日ヲ誤刑スル者ノ如シ蓋シ該犯ハ盜業再犯ニ係ルヲ以テ本罪懲役六十日ニ再犯ノ一等ヲ加ヘ懲役七十日之ヲ原犯ノ懲役九十日ニ通算スレハ則百六十日ヲ相當トス依テ該裁判所ノ擬律ヲ閱スレハ果シテ然リ擬律法理ニ於テ其當ヲ得タル者ト雖モ刑名宣告文ニ依テ之ヲ論スレハ毫モ再犯加等ノ明文無之何レノ法理ニ依テ百六十日ニ處斷シタルカ其理ヲ辨セサルカ故ニ單ニ懲役十日ノ誤刑ト見做而已ナラス該犯若シ盜業三次ニ及フキハ緊要ノ宣告文中再犯加等ノ明文ナキヲ如何ニセン依テ該裁判ノ法律ニ不當ト認メ上告破毀

ヲ求ムル所以ナリ

大木司法卿ハ明治十年九月十四日ヲ以テ大審院詰檢事ニ達セラレシ旨左ノ如シ

無籍久右衛門犯罪處斷不當ノ儀ニ付福岡縣九等警部神治人ヨリ別紙ノ通り及上告候ニ付相當ノ處分可致候條此旨相達候事

大審院詰兼務檢事大塚盛蕤ハ明治十年九月二十五日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシ事左ノ如シ

該件擬律其當ヲ得ルト雖モ再犯加等ノ旨ヲ記載セヌシテ裁判宣告セシハ聽斷ノ定規ニ違フ者トス

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

神治人ニ於テハ長崎裁判所福岡支廳ノ宣告文中再犯加等ノ文ヲ記

載セザルヲ以テ不當ノ裁判ト認メ破毀ヲ求ムレド福岡支廳ニ於テ
 久右衛門ニ宣告シタル罰文ヲ閱スルニ竊盜ノ科ニ依リ懲役九十日
 處刑中云々縣廳内ニ於テ使役中逃走シ云々河邊千兵衛外六ヶ所ニ
 於テ竊取スル贓金壹圓以上ノ科改定律例第二百九十九條ニ依リ棒
 鎖一日ノ上從新拘役一百六十日申付ルト有ルニ依レハ罰文中ニハ
 再犯加等ノ文ヲ記載セサルモ久右衛門カ受ケシ刑ニ於テハ輕重出
 入ノ差ナキ者トス左スレハ福岡支廳ニ於テハ久右衛門ニ對セシ申
 渡書ニ再犯加等ノ文ヲ記載スヘキヲ記載セザリシ迄ニテ久右衛門
 カ受ケシ刑ニ於テハ輕重出入ノ差ナキヲ以テ本件ノ裁判ヲ破毀ス
 ヘキノ限ニ在ラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ久右衛門ニ申渡シタ

ル裁判ハ破毀スヘキモノニアラストス

第一百號

○判文(賭博再犯ノ件)明治十年七月三十一日上告
 明治十年十一月六日判決

高知縣阿波國名東郡富

田浦商

鹽崎久平

右久平カ明治十年七月二十八日高知縣德島警察署ニ於テ爲シタル假
 口供ノ旨趣左ノ如シ

前科明治七年十月廿五日舊名東縣ニ於テ賭博ノ科ニ依リ杖八十ニ
 處セラレ

自分儀明治十年七月廿七日同郡富田浦松浦常吉方へ立越シ雜話ノ
 末同人賭具所持致ス趣其嘶シ候處ヨリ不宜儀トハ存ナカラ右常吉
 并ニ坪田善藏山口市藏ト金錢ヲ賭ケ博奕致シ居候處御取押ニ相成

右ニ付高知縣警察官ハ明治十年七月三十一日高知縣裁判所德島支廳ニ求刑シ明治十年七月三十一日高知縣裁判所德島支廳ニ於テ鹽崎久平カ爲シタル口供ノ旨趣左ノ如シ

自分儀明治十年七月廿七日同浦松浦常吉方ニ於テ雜話ノ末常吉骨牌取出シ右常吉并ニ坪田善藏山口市藏俱々金錢ヲ賭シ候場合巡査ニ取押ヘラレ候

右ニ付高知縣裁判所德島支廳ニ於テ明治十年七月三十一日左ノ如ク處斷申渡シタリ

其方儀同累松浦常吉方ニ於テ金錢ヲ賭スル科賭博條ニ依リ杖八十申付ル

高知縣九等警部今枝尙與ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年

八月三日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要領左ノ如シ

鹽崎久平儀明治十年七月廿七日松浦常吉宅ニ於テ坪田善藏外一名

骨牌ヲ以テ金錢ヲ賭ケ罷在ル場合捕獲シ取調タルニ假口供ノ如ク

賭博再犯タルヲ明白ナルニ高知縣裁判所德島支廳ニ於テハ明治十年

七月三十日連累一同杖八十ニ處斷セリ然ル處久平ハ再犯者ニ付前

顯裁判所ハ不當ト見認メ上告ス

大木司法卿ハ明治十年九月廿日ヲ以テ大審院詰檢事ニ達セラレタル旨左ノ如シ

高知縣平民鹽崎久平犯罪處斷ノ儀ニ付同縣九等警部今枝尙與ヨリ別紙ノ通り及上告候因テ相當ノ處分可致事

檢事犬塚盛巍ハ明治十年九月二十四日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシ

事左ノ如シ

該犯鹽崎久平賭博罪再犯ナルヲ假口書ニ於テ明瞭ナリ而シテ德島支廳ニ於テ之ヲ推糺セス概シテ初犯ヲ以テ論決シタルハ聽斷ノ定規ニ違フ者トス

右ニ付大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

鹽崎久平カ高知縣德島警察署ニ於テ爲シタル假口供初項ニ前科明治七年十月廿五日舊名東縣ニ於テ賭博ノ科ニ依リ杖八十ニ處セラルトアリ又久平ノ明治七年十月廿五日舊名東縣ニ於テ爲シタル口供ヲ參觀スルニ之レト符合スレハ久平ハ賭博ノ罪ヲ再犯シタルヲ明白ナリ然ルニ高知裁判所德島支廳ニ於テハ前科ヲ論セスシテ初犯ヲ以テ論シ杖八十ニ處分シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十年七月三十一日高知裁判所德島支廳ニ於テ鹽崎久平ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ更ニ大審院ニ於テ平翻スルヲ左ノ如シ

鹽 崎 久 平

右金錢ヲ賭ケ博戲スル者雜犯律賭博條凡財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス者ハ替杖八十ト云ニ依リ懲役八十日再犯ナルヲ以テ名例律再犯加等罪例條凡竊盜及ヒ賭博ヲ犯シ已ニ官司ノ斷決ヲ經テ再々ヒ犯ス者ハ並ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フトアルニ依リ

懲役九十日

第百十一號

○判文(人ノ所持船ノ帆ヲ盜取リシ件)明治十年六月十六日上告
明治十年十一月十日判決

福岡縣筑前國穗波郡柳

橋村平民

德右衛門長男

飯本德四郎

明治十年六月
三十二年二月

右德四郎カ明治十年六月二日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ爲シタル口
供ノ旨趣左ノ如シ

一自分儀明治十年三月一日夜穗波郡鯨田村川岸ニ繫キ有之同村小

山卯八所持ノ船ニ立入帆壹張盜取シタリ

一右品勝野村加藤清三郎ニ代金三圓五拾錢ニ質入致シタリ右品估

計金六圓五拾錢ナリ

右ノ口供ニ依リ明治十年六月十三日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ

處斷ヲ申渡シタリ

其方儀明治九年三月一日夜穗波郡鯨田村川岸ニ繫キ有之同村小山
卯八所持ノ船ニ忍入帆壹張盜取ル脏金六圓五拾錢ノ科賊盜律竊盜
條ニ依リ懲役六十日申付ル

福岡縣六等警部豐永高義ニ於テハ右ノ處斷ヲ不當ナリトシ明治十年
六月十六日大審院ニ上告スル爲メ上告狀ヲ司法省ニ差出シタリ右
上告狀ノ要領左ノ如シ

飯本德四郎ノ犯罪タルヤ穗波郡鯨田村川岸ニ繫キアル同村小山卯
八所有ノ川船ニ立入リ帆壹張ヲ盜ミ取ルモノニシテ一概ニ賊盜律
竊盜條ニ依リ論決スヘキモノニ非ス何トナレハ其管主ノ有無ニ據
テ眞盜準盜ノ別アレハナリ其證ハ明治七年司法省日誌第百九十三
號名東縣伺但書ニ海岸等ニ繫キ有ル船及ヒ船ニ屬スル所ノ器械等

ヲ竊取スル者モ管主ナキ者ハ本文ノ通準盜ヲ以テ處斷可然哉ニ但書共伺之通ト指令有之是ニ由テ之ヲ觀レハ其管主ノ有無ニ依テ竊盜準盜ノ區別アル確然タリ果シテ然ルキハ是等ノ盜犯ハ必ス先ツ管主ノ在不在ヲ審糾シ確實供狀ニ填明シ而シテ後チ之レカ裁判ヲ爲サ、レハ眞盜準盜ノ差異ヲ區別シテ審判スル能ハサルヤ必セリ然ルニ長崎裁判所福岡支廳ニ於テハ其供狀ニ管主ノ有無ヲ填明セズ止タ小山卯八所持ノ船ニ立入り帆壹張盜ニ取リ云々トアルヲ以テ一概ニ賊盜律竊盜條ニ依リ處斷シクソト雖モ該口供ニテハ未ダ其管主ノ有無ヲ詳カニセス故ニ試ニ該犯ニ問フニ管主ノ有無ヲ以テスルニ果シテ明治九年三月一日夜鯉川ニ漁業ノ際管主ノ不在ナルニ依リ忽然盜心ヲ生シ船中ニ立入り帆壹張ヲ盜ニ取リタリト答フ若シ果シテ然ルキハ賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ竊盜ニ準シ處斷

セラルヘキヲ至當トス右ノ理由ナルヲ以テ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ其管主ノ有無ヲ問ハス直チニ竊盜條ニ依テ判斷シタルハ不法ノ裁判ト見認メ乃チ破毀ヲ求ムル所以ナリ

大木司法卿ハ明治十年七月廿三日ヲ以テ大審院檢事ニ達セラレタル旨左ノ如シ

福岡縣筑前國穗波郡柳橋村平民飯本徳四郎犯罪處斷ノ儀ニ付別紙ノ通り福岡縣六等警部豐永高義ヨリ及上告候因テ相當ノ處分可致候事

大審院詰兼務檢事大塚盛蕪ハ明治十年八月八日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシテ左ノ如シ

該犯看守者ナキ舟ノ帆ヲ竊取ル者盜田野穀麥條ニ擬シ準盜ニ處スヘキ者タリ仍テ福岡縣警部意見ノ通り長崎裁判所福岡支廳ノ裁判

ハ其當ヲ失スル者トス

右ニ付大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

豊永高義カ管守ノ有無ニ依テ眞盜準盜ノ差異アルヲ其有無ヲ審問
セズ竊盜條ニ依リ處斷シタルハ不法ナリトノ上告ハ相當ノ申立ナ
リトス如何トナレハ竊盜ニ依リ處刑スルモ準竊盜ニ依リ處刑スル
モ同ク懲役六十日ノ罪ナレトモ竊盜ハ累加ノ罪ノ犯數ニ算入シ準
竊盜ハ犯數ニ算入セサルヲナルニ因リ竊盜ト準竊盜トノ區別ヲ審
ニセサルヲ得サル事ナルニ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ糾問シタル
口供ニハ管守ノ有無ノ答ヘナキハ審問ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリ
トス

判決

右庄平儀明治十年五月十五日長崎裁判所管内久留米區裁判所ニ於テ
爲シタル口供左ノ如シ

自分儀明治十年二月十七日高良神社へ參詣致シ歸宅ノ途中酒給銘

右ノ理由ナルヲ以テ明治十年六月二日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ飯
本徳四郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ熊本裁判所ニ於テ更ニ審判ス可
キ旨ヲ達シタルニ付豊永高義ニ於テハ熊本裁判所へ求判スヘシ
第百十二號

○判文〔誤毀官物ノ件〕明治十年九月十四日上告
明治十年十一月十七日判決

福岡縣筑後國三潞郡六

丁原村平民

下 坂 庄 平

明治十年五月
四十五年十月

酩ノ餘リ御井郡通町筋巡查屯所ノ前へ取建有之標燈へ誤テ突當リ候處火袋落テ破損シタルヨリ恐縮ノ餘リ一時其場逃走シ歸宅罷在ルテ同十八日御拘引ニ相成右火袋破損代積金三拾五錢ニ相成候右ノ口供ニ依リ明治十年五月十六日長崎裁判所管内久留米區裁判所ニ於テ左ノ裁判申渡シテ爲シタリ

其方儀明治十年二月十七日酩酩ニテ歸宿ノ途中巡查屯所ノ標燈へ誤テ突當リ毀損スル賍金壹圓以下ノ科棄毀器物稼穡律ニ依リ準竊盜ヲ以テ論シ懲役五十日官物タルヲ以テ一等ヲ加へ同六十日ノ本罪ヨリ三等ヲ減シ懲役三十日申付ル

但毀損スル代價三拾五錢ハ其筋へ償還スヘシ
福岡縣八等警部藤本重威ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トナシ大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

該犯ノ標燈ヲ毀損スルヤ醉歩ノ途上誤テ標燈ニ衝突シ官物ヲ毀損ス乃チ戸婚律棄毀器物稼穡條官物ヲ誤毀スル者ヲ以テ論決シタルハ不法ノ裁斷ニ非スト雖モ抑モ誤毀ハ無心ニ出ルモノニシテ其犯情實ニ原諒スヘシ然ラハ則名例ニ載ル所ノ的決シ難キ者ニシテ宜シク贖罪ニ處スヘキ者ナリ豈之ヲ故造ノ犯ト同視シテ實決スルノ理アラソヤ是レ該裁判ノ破毀ヲ求ムル所以ナリ

大木司法卿ハ明治十年七月六日ヲ以テ大審院檢事ニ達セラレシ旨左ノ如シ

福岡縣下筑後國三潯郡六丁原村平民下坂庄平犯罪處斷ノ儀ニ付同縣八等警部藤本重威ヨリ別紙ノ通及上告候因テ相當ノ處分可致候條此旨相達候事

大審院詰兼務檢事犬塚盛巍ハ明治十年九月十四日ヲ以テ大審院ニ處

分ヲ求メシテ左ノ如シ

該犯醉中標燈ニ衝突シ之ヲ毀損スル素ヨリ無心ノ過失ニテ事情原諒スヘキ者ナリ法ニ依リ贖罪ヲ準スヲ適當トスヘシ仍テ福岡縣警部意見ノ通り久留米區裁判所ノ裁判ハ其當ヲ失スル者トス

右ニ付大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

名例律平民犯罪不實斷條ニ凡平民罪ヲ犯シ過誤失錯連累其他不幸ニ出テ事矜憫スヘク情原諒スヘクシテ實斷シ難キ者ハ法ニ依リ贖罪ヲ準ストアリ左スレハ庄平カ拇印セル口供ニシテモ標燈ニ誤テ突當リ候云々トアリテ過誤ニ出テシテ明瞭ナレハ福岡縣八等警部藤本重威カ上告ノ如ク戶婚律棄毀器物稼穡條官物ヲ誤毀スル者ヲ以テ論シ而シテ名例律平民犯罪不實斷條ニ照シ宜シク贖罪ニ處

ス可キ者トス然ルテ久留米區裁判所ニ於テ實斷ノ裁判ヲ爲シタルハ不法ナル裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ久留米區裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ大審院ニ於テ之ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

下 坂 庄 平

右巡查屯所ノ標燈ヲ毀損セシ科戶婚律棄毀器物稼穡條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ賍金壹圓以下ナルヲ以テ懲役五十日官物タルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役六十日ノ處誤毀ニ依ルヲ以テ三等ヲ減シ懲役三十日仍ホ名例律平民犯罪不實斷條凡平民罪ヲ犯シ過誤失錯連累其他不幸ニ出テ事矜憫ス可ク情原諒ス可クシテ實斷シ難キ者ハ法ニ依リ贖罪ヲ準ストアルニ依リ贖罪例圖ニ照シ

贖罪金貳圓貳拾五錢

但毀損スル代價三拾五錢ハ償フヘシ

第一百十三號

○判文(監守盜ノ件)明治十年五月七日上告
明治十年十一月十七日判決

秋田縣第壹大區一小區

羽後國秋田郡手形元新

町同縣士族秋田縣元等

外三等出仕

小貫頼之

右頼之儀明治十年四月五日舊青森裁判所秋田支廳ニ於テ爲シタル口
供左ノ如シ

自分儀秋田縣未決監主守勤中囚人賄費其他監中一切ノ諸費仕拂擔

當罷在月々豫算ヲ以テ費用受取退テ前月分翌月ニ至リ仕拂勘定致
シ本拂ト唱ヘ更ニ前月分仕拂費受取餘金返納可致仕例ニテ右ノ手
續ヲ以テ月々受取居明治六年分決算未納金百拾六圓八拾六錢九厘
壹毛其儘打過居明治七年分金七拾六圓九拾壹錢三厘ハ一旦返納致
シタルトモ違算有之被差戻是亦其儘預リ置兩年分合計金百九拾三
圓七拾八錢貳厘壹毛未納相成居ル處右廉ハ今般秋田縣第六課ヨリ
仕拂有之右金ト突合返納相成候事

其後モ前顯ノ手續ヲ以テ諸費受取居タル處明治七年七月中未決監
囚山内新藏同八月中月居孫八郎脫監致シ兩人搜索中右入用百圓餘
モ相費シタルトモ使ヒ拂決算不相立ニ付仕上勘定不致囚獄費ノ内
ヲ以テ繰替居其他明治八年九月中既決監掛安藤和市免職ノ節同人
擔當ノ官金不足ヲ生シ依頼ヲ受ケ金八拾五圓是亦官金ヲ以テ取替

同掛船木久敏等へモ取替其他廉々不足ヲ生シ決算不相立私借罷在
候合計金千貳百三拾壹圓五拾壹錢五厘也
一金六拾六圓九拾七錢七厘

是ハ秋田縣舊裁判所庶務課勤中明治九年六月六日庶務課元十四等
出仕川崎肝ヨリ金拾圓計借受度依頼アレトモ手元金融無之ニ付預
テ擔當罷在囚人所持金贓物匣へ差入ノ機有之其時手掛ノ儘取出シ
私金ノ體ニテ右金ノ内拾五圓取換餘金ハ懷中シ退廳後所々奔走シ
歸宅相改タル處途中ニテ遺失セシヤ金圓無之追テ吟味ノ未標記ノ
金員不足相生シ候趣承知致シタリ

前顯未納金仕上勘定追々遷延相成金策中種々心配シタレトモ多數
ノ金員不行届切迫ノ餘寧ヨ自首可致ト存シ自首狀相認メ彼此躊躇
罷在ル際明治九年六月十五日出納課長磯野直諒ヨリ催促有之未決

監主守原田道貫ヲ以テ翌十六日迄猶豫相頼ニ猶同人ヲ以テ未決監
掛七等警部藤田成房へモ同様猶豫頼入タル處何ノ挨拶モ無之同日
四時頃警察署ヨリ喚出サレ糺問筋有之旨ニテ直ニ拘留被申付タル
ニ付不取敢右自首狀差出ス處續テ吟味相成タリ

右合計金千貳百九拾八圓四拾八錢貳厘ノ内五拾六圓六拾六錢四厘
ハ現存シ八圓三拾錢ハ加賀屋久七ヨリ上納ノ筈ニ相成居金千貳百
三拾三圓五拾壹錢六厘全シ私借相成候

明治十年一月十四日夜太平學校燒毀シ既ニ獄舎へ延燒セントスル
際主守ヨリ解放被申渡外門扉ヲ開カレタレトモ謹慎罷在鎮火ノ後
速ニ獄舎へ立歸リタリ

右ニ付明治十年五月四日弘前裁判所秋田支廳ニ於テ左ノ處斷ヲ申渡
シタリ

其方儀秋田縣未決監主守勤中監中ノ諸費仕拂擔當致居明治七年七月以來官金私借スル賍金千貳百三拾圓餘ノ科賊盜律監守自盜條例ニ依リ懲役終身ノ處繫獄中獄舎ノ近火ニ際シ解放スルニ謹慎シテ鎮火ノ後速ニ投歸スルニ付捕亡律獄囚脫監及反獄逃走條ニ照シ本罪ニ一等ヲ減シ除族ノ上懲役十年申付ル

賴之ニ於テ右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治十年五月七日大審院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

明治五年十一月中等外四等出仕拜命ニテ秋田縣獄舎主守被申付明治六年八月中同縣未決監主守被申付明治八年四月中等外三等出仕拜命明治九年四月中元秋田縣裁判所諸務係被申付勤務中明治九年六月十五日官金私借ノ義ニ付警察所ヨリ未決監ニ拘留被申付拘留中明治九年七月十三日免職ニ相成仍テ元未決監主守職務中賄諸費

仕拂擔當ノ砌明治八年五月二十五日ヨリ明治九年三月二十七日迄賄諸費假證ニテ受取ル金員合千貳百九拾九圓五拾錢此內金千貳百四拾五圓ハ全シ私借致シ候分也右金高ノ官金私借シタルニ付何卒發覺セサル內完備仕度ト百方盡力シタルトモ行届キ兼ル故寧ロ自首仕候方宜敷ト存シ自首狀認メ豫テ懷中致シ居タルトモ可相成ハ滿金返納仕度ト存シ尙ホ手配仕居タル折柄明治九年六月十五日元裁判所ニ出頭勤務罷在即日正午十二時頃秋田縣第六課課長磯野直諒ヨリ元主守勤務中明治八年五月以來賄諸費假證ニテ受取タル金員本日中可致返納掛合有リ仍テ明十六日迄ニ取調可致返納申立タルトモ是必本日中可致返納ト嚴敷掛合故一ト先承知シタルモ何分明十六日迄日延相成候得ハ滿金返納ノ目途モ有之ニ付第六課課長磯野直諒未決監掛四等警部藤田成房ニモ明十六日迄返納日延願度義

未決監主守原田道貫へ依頼シ同人其向キへ掛合タル處後刻迄日延
 ノ成否返答有之趣故元裁判所詰所ニ於テ相待居タレモ何ノ返答モ
 無之午後四時頃警察所ヨリ喚出ニ相成當惑シタレトモ豫テ自首ノ
 心慮ニテ懷中致シ居ル自首狀ヲ以テ直ニ警察所へ自首シタル處自
 首狀採用ニ相成其未官金私借ノ顛末取糺有之委細供申ス且繫獄中
 獄舎ノ近傍火災ノ際一時解放相成タレトモ謹慎シテ投歸セリ抑宣
 告罰文中不當ト存スル廉ハ豫テ官金私借シタルニ付發覺セサル内
 完備仕度ト存シ百方盡力シタレトモ行届兼鞫ロ自首仕候方宜敷ト
 存シ自首狀認メ懷中致シ居ル處明治九年六月十五日正午十二時頃
 第六課課長磯野直諒ヨリ催促ニ付明十六日迄返納日延ノ義依頼イ
 タシ右返答待居タレトモ何ノ返答モ無之同日午後四時頃警察所ヨ
 リ呼出シニ相成乃チ豫テ懷中ノ自首狀ヲ以テ直ニ警察所へ自首致

シ自首狀採用ニ相成タリ然ルニ罰文中自首採用ノ廉無之義了解致
 シ兼仍テ上告仕候間宜ク審明ノ御裁判ヲ奉願候也

右ニ付大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

頼之カ上告書中ニ宣告文中不當トスルハ官金私借シ事ノ發覺セサ
 ル内完備セント百方盡力スルモ行届兼ヌルヨリ自首狀ヲ認メ懷中
 セシニ明治九年六月十五日正午十二時頃第六課長磯野直諒ヨリ催
 促ヲ受ケ翌十六日マテ延期ヲ依頼シタルニ何ノ返答モナク同日午
 後四時頃警察所ヨリ呼出シニ相成リ乃チ豫テ懷中ノ自首狀ヲ以テ
 直ニ警察所へ自首シ自首狀採用ニ相成タリ然ルニ罰文中自首採用
 ノ廉無之義了解致シ兼ルト申立ルト雖モ名例律犯罪自首條ニ凡罪
 ナ犯シ事未ク發覺セスシテ自ら首出スル者ハ其罪ヲ免ストアリ又

ヲ犯罪自首條例第五十九條ニ凡罪ヲ犯シ人ノ官ニ陳告セント欲ス
 ルヲ知テ自首スル者ハ本罪ニ二等ヲ減シ官ノ捕獲セント欲スル
 ヲ聞テ自首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減スルノ法律アリトモ凡ソ罪
 ヲ犯シ官ニ拘留セラレシノ後吟味ヲ受ケサルノ前ニ際シ自首スル
 者ノ本罪ヲ減等スルノ法律ナシトス小貫頼之ニ於テハ犯罪發覺シ
 既ニ喚出テ經テ拘留セラレシ後自首狀ヲ差出スモノナレハ自首ノ
 効ナキ者ナルヲ以テ頼之カ罪ヲ斷スルハ明治十年四月二十五日司
 法省丁第三十二號達ニ明治九年五月第七十四號公布ヲ以テ私借官
 物律例被廢候ニ付右處分方ノ義太政官ニ伺出候處監臨主守官ノ金
 穀ヲ私ニ使用融通スル者ハ監守盜ヲ以テ論ス可キ旨御指令有之候
 ニ付爲心得此旨達候事トアルニ照據シ明治九年七月第一百一號布告
 改正監守盜常人盜條例ニ監守盜百五拾圓以上懲役終身トアルニ依

リ處分ニ自首ヲ聽ス可ラサル者トス因テ弘前裁判所秋田支廳ニ於
 テ監守自盜條例ニ依リ贓金千貳百三拾圓餘懲役終身ノ處獄舍近火
 之際解放スルノ後投歸スルヲ以テ一等ヲ減シ懲役十年ニ處シタル
 裁判ハ不適當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ弘前裁判所秋田支廳ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナ
 キニ付上告狀却下候事

第一百十四號

○判文〔竊盜三犯ノ件〕明治十年八月廿日上告
 明治十年十一月十九日判決

福岡縣筑後國生葉郡大

石村平民團一郎弟

明治十年八月
二十一年五月

右武六儀明治十年八月二日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ爲シタル口供ノ旨趣如左

明治九年八月中舊三瀨裁判所ニ於テ竊盜未得財ノ科ニ依リ答四十二處セラル

明治十年五月十一日久留米區裁判所ニ於テ竊盜未得財再犯及ヒ拘留中逃走シ尙ホ責付中逃走スル科ニ依リ懲役八十日ニ處セラ

ル
自分儀懲役八十日御處刑相成其翌日明治十年五月十二日久留米通六丁目三ツ橋清吉方へ外役中惡心ヲ生シ看守人ノ隙ヲ伺ヒ看板ハ其場ニ拔捨逃走致タリ

前書ノ如ク逃走シ爾後諸所徘徊中蓄ヘ金モ無之貧窮ノ餘リ亦々盜

心ヲ生シ明治十年七月十九日竹野郡地德村平民桑原次八方留守宅ヲ見認メ恐入金七圓六錢四厘盜取尙同郡竹野村平民中島平藏方へ忍ヒ入金壹圓五拾錢並縮緬スコキ壹筋外壹品盜取タリ
右盜取金ノ内拾九錢五厘五毛ハ飲食ニ費用致シ其餘品共所持致シ居候處此度御引揚ノ上估計金四拾貳錢盜金共合八圓九拾八錢四厘ニ相成タリ

右ノ口供ニ依リ明治十年八月十日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ處斷申渡ヲ爲シタリ

其方儀明治十年五月中久留米區裁判所ニ於テ竊盜再犯處刑中外役先ヨリ逃走致シ剩ヘ明治十年七月中竹野郡地德村平民桑原次八方外壹ケ所ニ恐入金圓及ヒ矢立外一品盜取ル贓金八圓九拾八錢餘右科賊盜律竊盜三犯五拾圓以下ノ者ニ依リ尙ホ改定律例第二百九拾

九條ニ照シ棒鎖一日ノ上懲役十年申付ル

但シ盜取ル金圓及ヒ物品共取上

右武六ニ於テハ右ノ裁判ニ服セス明治十年八月二十日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

自分儀昨明治九年四月日不覺久留米宮ノ司渡シ場木炭積込有之舟壹艘筑前國上座郡林田村末吉ト申者ト與ニ盜取ント欲シ候處名不存舟主ヨリ見咎ラレ末吉ハ直ニ逃走自分儀ハ舟主ヨリ元佐賀縣久留米警察所ニ誘ハレ同所裁判所ニ於テ明治九年七月七日答刑四十被仰付同年八月日不覺久留米中町家名不存方ニ竊ニ忍ヒ入候處未タ贓ヲ不得内家主ニ被覺候ニ付其場逃走其翌日同所三本松伊勢神社ニテ被召捕同所警察所拘留中逃走致シ八月日不覺宿元ニ於テ被捕同年九月十三日懲役五十日被申付自後未決監ニ居ル事凡五十日

〇チ

計ニシテ親族ニ御引渡ニ相成同十年三月日不覺更ニ懲役八十日被申付三池石炭坑ニ出役中逃走致シ同年四月日不覺同國竹野郡中原村ニ於テ金八圓餘盜取候ニ付同年八月十日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ竊盜三犯ノ科ニ依リ棒鎖一日ノ上懲役十年被申付然ル處前二犯ハ各財ヲ不得ル存念ノ罪ニ有之三犯ニ數フ可キ者ニ無之ト相考何分承伏難致候間今一應御覆審被仰付度明細書ヲ以テ上告仕候也
大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルノ左ノ如シ

辨明

田代武六ニ於テハ明治九年八月中三潯裁判所ニ於テ刑ヲ受シ罪ト明治十年五月十一日久留米區裁判所ニ於テ刑ヲ受ケシ罪トハ竊盜未得財ノ罪ナレハ三犯ニ數フ可キ者ニ非スト上告スレハ賊盜律竊盜條ニ凡ソ竊盜財ヲ得サル者ハ答四十トアルニ依レハ已ニ竊盜ノ

所爲アリシ上ハ其財ヲ得サルヲ以テ竊盜罪ヲ犯セシニ非スト爲ス
 一ヲ得ヌ名例律再犯加等罪例ニ凡竊盜及ヒ賭博ヲ犯シ已ニ官司ノ
 斷決ヲ經テ再ヒ犯ス者ハ並ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フトアリ及ヒ
 改定律例第百三拾六條ニ竊盜再犯財ヲ得サル者ハ律ニ依リ一等ヲ
 加ヘトアルノ法律ニ依レハ竊盜ノ初犯及ヒ再犯ニ於テ財ヲ得サル
 者タリトモ其竊盜ノ初犯及ヒ再犯タルコトハ明瞭ナルニ因リ右ノ初
 犯及ヒ再犯ニ付キ已ニ官司ノ斷決ヲ經シ後ニ至リ又タ竊盜ノ罪ヲ
 犯セシ時ハ法ニ依リ三犯ノ罪ヲ論ス可キ者トス即チ武六カ明治十
 年七月十九日竹野郡地德村桑原次八方並ニ同郡竹野村中島平藏方
 一悉入金錢物品盜取シハ竊盜三犯財ヲ得ルモノニシテ其盜贓金八
 圓九拾八錢餘ナルヲ以テ竊盜條ニ依リ竊盜三犯五拾圓以下ナルニ
 依リ懲役十年ニ處斷スヘキモノトス故ニ長崎裁判所ニ於テノ處分

ハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ爲シタル裁判ヲ破毀
 スヘキノ理由無キニ依リ上告狀却下スル者也

第百十五號

○判文〔持兇器強盜ノ件〕明治十年九月九日上告
 明治十年十一月廿日判決

岐阜縣美濃國羽栗郡平
 方村福岡小重郎附籍平
 民傘職

山田吉次郎

明治十年七月
 二十三年九月

明治十年七月廿一日山田吉次郎松本裁判所岐阜支廳ニ於テ爲シタル

口供左ノ如シ

自分儀厚見郡加納町西方寺中ニ座敷一ト間借受ケ獨身ニテ傘ノ骨削リイタシ僅ニ生計相營ミ居候處昨明治九年三月中右同郡鶉村邊ニ毎夜怪シキ陰火相見ヘ不審ニ之レアルヲ確ニ見認メント存シ明治九年三月十九日午後第八時頃甚入並ニ淺黄古手拭等ヲ腰ニ着ケ曾テ右同町鷺見市太郎ヨリ買置ク鍔先キ一尺八寸拵付ノ刀壹本當時鉈替リニ用ヒ柄鍔等取外シアルヲ身鞘ノ儘相携ヘ鶉村ニ罷越シ明治九年三月十九日午後第十時前頃ト覺ヘ淺井重太郎宅前ヲ通り不圖富家ナラント見受ケ候ヨリ手元逼迫ノ餘リ忽チ盜心ヲ生シ西隣構内ヨリ重太郎宅前ニ這入り逃去ル用意ニ表門門ヲ外シ片扉ヲ開キ置キ居宅西南角戸袋ノ下ニ暫時イミ居際重太郎ト覺シキモノ歸來リ表門ノ明キアルヲ怪シナカラ彼是イタシ寢所ニ入ル様子ニ

之レアリ夫ヨリ凡二時間程相窺ヒ全ク寢入タル様子ニ付手拭ニテ面部ヲ裏ミ携ヘタル刀ヲ帶シ右戸袋端ノ戸ヲ明ケ竊ニ忍入り行燈ノ明リニテ重太郎等枕下ニ脱捨テアル木綿絹絲入縞男女袴二枚傍有合ノ風呂敷ニ包ミ行燈ノ下ニ之レアル金四十錢盜取リ立去ラントスル際妻ムメ目覺シ候間直チニ逃歸リ始末押包ミ右金ハ當座飲食ニ費用イタシ明治九年三月廿九日衣類並ニ風呂敷正不正ノ趣申隱シ右同町住士族草河明ヘ借用金ノ利子ニ抵テ相渡シ候儀ニテ明治九年九月三十日御捕縛相成リ候處岐阜縣警察元御出張所ニ於テ御取調ノ節兼テ鉈ニ致スヘクト買置ク刀ヲ携ヘ手拭ニテ面部ヲ覆ヒ重太郎宅坐敷戸締リナキ幸ヒ拔刀押入り候處夫婦並ニ小供二人目覺シ居候間拔刀ヲ疊ニ突立テ金錢差出スヘク旨申威シ候處拾二枚金四拾錢計差出シ候間右衣類ヲ風呂敷ニ包マセ直チニ持歸リ

タル旨申立明治九年十一月中岐阜縣於テ御糺問ノ節右御出張所ノ申立ハ全ク詐リニテ唯ク帶刀押入り候迄ニテ拔刀ハ致サ、ル段申上其後當御裁判所糺問御掛於テ御糺問ヲ受ケ實ハ前書ノ通り全ク帶刀恐入り金錢其外盜取リ逃去ル際家内ノ者目覺シ候迄ニテ強盜ノ所業ハ決シテ致サス候段申上候

明治九年九月廿日午後第六時頃右同郡藪田村淇澳學校ニ忍入り書籍四拾四冊外繪圖一枚卒業書一通朱肉地一ツ筆六本盜取リ悉皆所持罷在リ候

右藪田村ヲイテ盜取ル金並ニ衣類風呂敷ノ代積金トモ壹圓六拾貳錢四厘ニ相成リ藪田村ヲイテ盜取ル分ノ代積金三圓拾六錢六厘ニ相成リ合計金四圓七拾九錢ニ相成候

右ニ付明治十年九月一日松本裁判所岐阜支廳ニ於テ左ノ處斷ヲ申渡

シタリ

其方儀明治九年三月廿日刀ヲ帶シ淺井重太郎宅ニ忍ヒ入り金四拾貳錢並ニ右重太郎枕邊ニ脱キ捨アル衣類等盜取タル旨供出スルド雖モ當時重太郎ノ届書ニ依リ警察官及ヒ村吏等立會現場ヲ檢視スルニ寢所ノ疊ニ刀痕四箇アルヲ確認スルノミナラス其贓物タル衣類ニ一點ノ垢染ミタル所ナキハ事主ノ常ニ着用セス戸棚ニ仕舞置タルト明言スルニ適合セリ如斯持兇器強盜ノ證明白ナルヲ以テ改定律例第百廿七條中改正條款ニ照シ懲役終身申付ル
但淇澳學校ニ忍入り書籍等盜取ル贓金壹圓以上ノ罪ハ輕シ論セ

山田吉次郎ニ於テハ右ノ處斷ヲ不當ナリトシ明治十年九月九日大審院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

箱入ノ鉈ヲ帶ヒ淺井重太郎方へ忍入り枕邊ニ有之金錢并ニ衣類等
 盜取アリ刀ヲ帶シ忍入りタル儀申立シ覺無キニ刀ヲ帶シ忍入りタ
 ル旨申渡サレ又衣類ハ戸棚ニ仕舞置云々且疊ニ四箇ノ刀痕アル旨
 宣告ニ成タレヒ衣類ハ前顯ノ通り枕邊ノ品ニテ刀痕ノ儀ハ更ニ覺
 へ無之因テ右ノ裁判ハ不服ニ付上告ス
 右ニ付大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

山田吉次郎ニ於テハ箱入ノ鉈ヲ帶ヒ忍入り枕邊ニアル金錢衣類ヲ
 盜取リ帶刀シタル儀申立シ覺モ無之ヲ刀ヲ帶シト申渡サレ又衣類
 ハ戸棚ニ仕舞置キ云々且又疊ニ四箇ノ刀痕アル旨申渡サレタルヒ
 衣類ハ前顯枕邊ニ有之品ニテ刀痕ノ儀ハ更ニ覺無之旨申立ルト雖
 モ吉次郎カ明治十年七月二十一日松本裁判所岐阜支廳ニ於テ結審

モシ口供ニ鑄先キ一尺八寸拵付刀壹本當時鉈替ニ用ヒ柄鑄等取外
 シアルヲ身鞘ノ儘相携ト有之又事主淺井重太郎カ岐阜縣警察所ニ
 差出シタル届書并ニ松本裁判所岐阜支廳ニ於テ爲シタル口供ヲ閱
 スルニ左ノ如シ

明治九年三月廿日岐阜縣警察所ニ差出シタル淺井重太郎届書ノ
 旨趣

本月廿日午前第二三時頃座敷口ヨリ壹人ノ男拔刀ヲ携へ手拭ヲ冠
 リ押入來リ右ノ拔刀ヲ疊ニ突立テ金錢可差出旨申募リ無餘儀金四
 拾錢衣類二枚取揃相渡タル處風呂敷ニ包ミ可申様申ニ付風呂敷ニ
 包ミ相渡シ彼直ニ戸口ヲ切リ出行タリ依テ此段御届申候
 明治十年一月六日松本裁判所岐阜支廳糺問掛リニ於テ爲シタル
 淺井重太郎カ口供

自分儀明治九年三月廿日午前第一時頃強盜押入り拔刀ヲ疊ニ突立
 金錢借受ケ度旨強談中右腕ヲ刀ノ柄頭ニ載セ左手ニテ烟管ヲ持テ
 莫テノミ候節其刀柄鏝共有之シハ確ト見認メタリ
 是ニ由テ之ヲ觀レハ吉次郎カ携ヘタルハ拵付ノ刀ニシテ鈍ニアラ
 サルヲ明瞭ナリトス又事主重太郎カ明治十年七月廿三日岐阜支廳
 ニ於テ爲シタル口供中ニ佛壇引出シニ入レ置ク錢入ヨリ金錢取交
 四拾錢差出タル處不足ノ趣ニテ衣類ニテモ可差出様申ニ付妻「ムメ」
 次ノ間押入レ戸棚「ロリ」ムメ所持ノ糸入縮裕壹枚取出シ疊ミタル儘
 強盜ノ前ニ差出ス處尙不足ノ趣申聞ケ今壹枚自分所持ノ糸入縮裕
 差出シトアリ又自分ハ平常衣類脱捨テ裸体ニテ相臥シ妻「ムメ」ハ小
 兒ヲ抱キ衣服着用ノ儘寢臥シト之レアリ當時岐阜支廳詰裁判官ニ
 於テ贓品衣類ヲ檢閲セシニ襟其外垢染ミタル箇所一點之レナシト

アリ然ラハ重太郎等平常着用セサル衣類ニシテ吉次郎カ枕邊ニ脱
 棄有之品ナリトノ申立ハ相立ス且又岐阜縣四等警部石川豐吉ヨリ
 明治九年十一月十五日岐阜縣權令ニ差出シタル事主居宅檢視書ノ
 旨趣左ノ如シ

岐阜縣四等警部石川豐吉檢視書

本年三月二十日午前第一時頃第一大区十一小区鶉村農淺井重太郎
 方ニ強盜一人拔刀ヲ携ヘ侵入其刀ヲ疊ニ突立候趣事主重太郎屈書
 ニ記載アルニ付現場檢視候處居間坐敷ハ六疊敷ニテ其中央ノ疊ノ
 又中央ニ突痕四ヶ所有之一ハ長サ三分二ハ三分三厘三ハ貳分四ハ
 三分五厘ニテ其深サハ壹分貳分乃至三分有之形痕刀劍ノ突痕ニ聊
 相違無之尤現場ニ濺ムヤ事主其痕ヲ見出サス迷ヒ居候際幸ヒニ私
 儀見出シタルニ付事主重太郎ニ於テ取繕ヒ等ノ儀毛頭無之見込ニ

候

右ノ如ク強盜ノ證據明白ナルヲ持兇器強盜ニアラストノ上告ハ相立サルモノトス因テ松本裁判所岐阜支廳ニ於テ改定律例第二百二十七條中改正條款ニ照シ懲役終身ニ科斷シタルハ不適當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十年九月一日松本裁判所岐阜支廳ニ於テ山田吉次郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ付上告狀却下スル者也

第一百十六號

○判文他管擅出自首ノ件 明治十年十月廿日上告 明治十年十一月廿六日判決 神奈川縣第一大區一小

區橫濱吉岡町二丁目笹

岡庄七方止宿平民

笹岡庄吉

明治十年七月 四十一年三月

右庄吉儀明治十年六月十九日神奈川縣權令野村靖へ差出シタル自訴狀ノ旨趣左ノ如シ

私儀去ル明治六年中ヨリ前記ノ場所ニ於テ炭薪渡世罷在候處近年家事向追々不如意相成候ニ付親類并店主へモ無斷ニ同年三月二十五日妻子召連金策ノ目途有之下總國ヨリ伊勢國迄罷越病氣相發不圖一年百十日ヲ經本日歸町仕候處兄笹岡庄七并地受人金井長造ヨリ不通罷在候ヲ以既ニ逃亡御訴仕候段承知仕驚愕ノ至存候依テ先非後悔仕奉自訴候問何卒寛大ノ御處分相成候様伏テ奉歎願候以上

右ニ付神奈川縣第一課戶籍掛ヨリ明治十年六月二十日同縣第四課へ
通報シタル書面左ノ如シ

笹岡庄吉

外家族貳人

右ノ者去明治六年三月二十五日逃亡致候處今般歸籍出願ニ付別紙
本人願書交付ニ及ヒ候也

神奈川縣警察官ニ於テ明治十年六月二十二日取調タル庄吉ノ推問書
左ノ如シ

自分儀兼テ貧困ニシテ活計ノ目的無之ヨリ店主へモ無斷明治六年
三月二十五日妻子召連家出致諸國徘徊ノ末今般先非ヲ悔ヒ別紙書
面ヲ以テ自首致候處今般御調ヲ受奉恐入候

右ニ付神奈川縣ヨリ明治十年六月二十三日横濱區裁判所へ求判セシ

左ノ如シ

笹岡庄吉

右ノ者儀兼テ前書庄七店借受炭薪渡世致居中明治六年三月中妻子
召連無斷家出致諸國徘徊ノ末今般罷歸自首候ニ付一件書類取束此
段及證告候也

明治十年七月十四日横濱區裁判所ニ於テ爲シタル庄吉カ口供左ノ如
シ

自分儀兼テ貧窮ニシテ活計ノ目的無之ヨリ店主へモ無斷明治六年
三月二十五日妻子召連家出ノ上諸國徘徊ノ末今般先非ヲ悔自首仕
候事

右ノ口供ニ依リ明治十年七月十四日横濱區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ
申渡シタリ

其方儀本籍ヲ逃亡シ二年以外ニ及フ科逃亡條ニ依リ杖八十ノ處悔悟自首スルヲ以贖罪金六圓申付ル

神奈川縣權令野村靖ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年八月十六日東京上等裁判所檢事局ヘ具申セシメ左ノ如シ

本縣第一大區一小區武藏國久良岐郡橫濱吉岡町二丁目笹岡庄七方

止宿平民炭薪渡世笹岡庄吉ナル者失踪シ二年以外ニ到ラス歸町シ

自首セシテ明治十年七月十四日逃亡條ニ照シ杖八十ノ處悔悟自首

スルヲ以テ贖罪金六圓申付ルト橫濱裁判所ニテ刑名宣告相成タリ

然ルニ刑ノ言渡ヲ受タル笹岡庄吉ナル者明治十年六月十九日ニ本

縣ヘ自首セタリ其自首狀ノ明文ニ明治六年中ヨリ前記ノ所之ハ不

テ商業ノ場所ニ於テ炭薪渡世罷在候處近年家事向違々不如意相成

候ニ付親族店主ニモ無斷ニテ同年三月二十五日妻召連レ金策ノ目

〇+

途有之下總國ヨリ伊勢國迄罷越シ病氣相發シ不圖一年百十日ヲ經

歸町シタリトアルヲ當該官六等警部綴所信篤ニ於テ其自訴セシ明

文ニアル百十日ノ意不調シテ戶籍掛ヨリ告發セシ事由ヲ信シ庄吉

ノ口供ヲ取り逃亡シ二年以外ニ到タル犯罪アリトシ求刑シタリ然

ルニ裁判官ニ於テモ信篤ノ取調ヘシ如ク自訴狀ニ一年百十日ノ明

文モ不取調シテ處斷シタリキ然ル後信篤ニ於テ求刑セシ際自分ニ

テ取調ヘ盡サルヲ覺舉シ一層取調タル所逃亡セシ時ノ届書ヲ得タ

リ之レヲ以テ證據トセハ未タ逃亡シ二年以外ニ到ラス法ニ於テ全

面免カチ聽カル明文アルニ因リ其旨ヲ法官ニ通知シ貼斷ノ儀ヲ申

入ルト雖モ貼斷難相成旨答ラレタリ該件ハ警察官ノ失錯ハ不俟論

ト雖モ又裁判官ニ於テモ自訴中ニ一年百十日ノ明文アルニ何故審

問ノ時取調ヘサルカ殊ニ該件ニ付要用ナル證左則本縣戶籍掛或ハ

戸長役場ノ戸籍簿ヲ徴セスシテ單ニ庄吉ノ供述ニ依リ判決セシナルヘシ證據ニ依リ罪ヲ斷スルハ專ラ裁判官ノ信認スル所ニアルヘキナレド最モ得易キ明確ナル證左ヲ措テ不問本犯ノ供狀ノミヲ以テ斷セシハ全ク聽斷ノ定規ニ乖キタル裁判ト言ハサルヲ得サル義ト信認候條一件書類八通相添明治九年第八號公布及司法省第三十號達書ニ照シ此段開申候也

東京上等裁判所詰檢事今中守身ハ明治十年八月十八日ヲ以テ大木司法卿へ具狀セシト左ノ如シ

神奈川縣第一大區一小區武藏國久良岐郡橫濱吉岡町二丁目笹岡庄吉處斷一件ニ付神奈川縣權令野村靖ヨリ別紙ノ通具陳相成候ニ付書類檢閱ニ及ヒ候處逃亡脱籍二年以外ニ到テサル證據明瞭有之則擅出他管五十日ヲ過クル者違令ノ重キニ問ヒ自首スルヲ以テ全免

ヲ與フヘキ處其證憑ニ依ラス只本人ノ口供ノミヲ取り逃亡自首ヲ以テ論シ贖罪金六圓ニ處斷セシハ裁判不當ト言サルヲ得ス仍テ明治九年本省第七號布達ノ旨ニ基キ一件書類相添此段及具申候也
大木司法卿ハ明治十年九月十日ヲ以テ大審院檢事へ達セラレシ旨左ノ如シ

神奈川縣平民笹岡庄吉犯罪處斷ノ儀ニ付東京上等裁判所檢事ヨリ別紙ノ通り具申有之候因テ相當ノ處分可致候條此旨相達候事
大審院詰兼務檢事大塚盛巍ハ明治十年十月二十日ヲ以テ大審院へ處分ヲ求メシト左ノ如シ

該犯口供及ヒ其他ノ文書ニ於テモ明治六年中逃亡セル旨明記セリト雖モ其自首狀中一年百十日ヲ經ト云ヒ且後ヲ檢出シタル逃亡屆書ニ據ルキハ其明治六年ト云ルハ誤認ナルヲ信認スヘシ仍テ

東京上等裁判所檢事意見ノ通横濱區裁判所ノ裁判ハ其當ヲ失スル者トス
右ニ依リ明治九年太政官第八號布告ニ基キ司法卿ノ旨ヲ受ケ此段上告候也

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

笹岡庄吉カ明治十年六月十九日神奈川縣權令野村靖ニ差出シタル自訴狀ヲ閱スルニ明治六年中ヨリ前記ノ場所ニ於テ炭薪渡世罷在候處近年家事向退々不如意相成候ニ付親族並店主ヘモ無斷ニ同年三月二十五日妻子召連金策ノ目途有之下總國ヨリ伊勢國迄罷越病氣相發不圖壹年百十日ヲ經本日歸町仕候處兄笹岡庄七并地受人金井長造ヨリ不通罷在候ヲ以テ既ニ逃亡御訴仕候段承知仕驚愕之至

存シ候依テ先非後悔仕奉自訴候云々トアリ右ノ同年三月二十五日トアルヲ明治六年三月二十五日トセハ庄吉カ自訴セシ明治十年六月十九日マテハ四年ト八十七日ニシテ壹年百十日ニ非ス若シ又家出後壹年百十日ヲ經テ歸町セシトセハ同年三月二十五日ト記載アルハ明治六年三月二十五日ニ非ストス然レハ右ノ年月ヲ審理シ事實ヲ推究スルニ非サレハ庄吉ハ何ノ罪ヲ犯セシ者ナルヤヲ知ル可ラス然ルニ神奈川縣六等警部穢所信篤ハ庄吉カ自訴狀ニ因リ事實ヲ取調ヘスニテ單ニ神奈川第一課戶籍掛ヨリ庄吉カ明治六年三月二十五日逃亡ノ旨ヲ以テ通報セシ文面ニ依リ庄吉カ假口供ヲ錄シ捺印セシメ横濱區裁判所ニ求刑セリ横濱區裁判所ニ於テモ假口供同一ノ口供ヲ以テ庄吉カ罪ヲ定メ自訴狀ノ年月ヲ審究セヌシテ本籍ヲ脱シ二年以外復歸自首スル者トシ裁判ヲ爲シタルハ審

問ノ未タ盡キ、ル不法ノ裁判ナリトス而シテ操所信篤ハ庄吉カ脱籍逃亡二年以外復歸セサル者ニ非サルヲ覺舉シ取調疎漏ノ趣ヲ以テ明治十年七月二十五日神奈川縣權令野村靖ニ待罪書差出タリ野村靖ニ於テモ横濱區裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上等裁判所檢事ニ具申スルニ付左ニ錄スル庄吉兄笹岡庄七及ヒ區長今西相一等連署ノ庄吉カ逃亡訴書ヲ副テ差出タリ

庄吉逃亡届書ノ要旨

笹岡庄吉
妻　　ワ　　サ
長　女　ス　　バ

右笹岡庄吉外二人共三月二十五日頃家内取片付家出致シ所々心當リ相尋候得共未タ行衛相知不申依之此段御訴奉申上候以上

明治九年五月廿四日

| | |
|-----|-------|
| 本人 | 笹岡庄七 |
| 實人 | |
| 本地人 | 金井長造 |
| 地受人 | 新藤宇之助 |
| 副長 | |
| 戸長 | 野田彦三 |
| 區長 | 今西相一 |

神奈川縣權令野村靖殿

右ノ届書ニ依レハ庄吉ハ明治九年三月二十五日家出セシコト判然ナリトス且又大審院詰檢事ヨリ庄吉カ家出ノ年月日相違シ事實取糾ス可キ旨照會セシニ因リ神奈川縣ニ於テ庄吉ヲ尋問セシニ付庄吉ヨリ上呈セシ始末書ニ

笹岡庄吉

右者無斷家出致其後歸國自首致シ候始末御尋ニ付左ニ奉申上候

此段自分儀明治六年中ヨリ横濱不老町三丁目貳百八十號地ニテ炭薪渡世致シ居候所退々家事向不如意之處ヨリ明治九年三月二十五日何レモ無届妻子召連レ家出致シ下總國并伊勢國等諸所徘徊致シ居中病氣相煩ヒ快方之上歸國明治十年六月十九日書面ヲ以テ自首致候所明治十年六月二十二日神奈川縣第四課ニテ御調ヲ受ケ明治十年七月十四日横濱區裁判所ニ於テ本籍ヲ逃亡シ二年以外ニ及候科逃亡條ニ依リ杖八十ノ處悔悟自首スルヲ以テ贖罪金六圓申付ラレ然ルニ自分儀ハ無断家出之後二年以外ニ相成候覺無之候ニ逃亡二年以外ト被申渡候ハ如何ノ事哉ト存居中神奈川縣第四課ニ御呼出シ御調ヲ受ケ既ニ明治十年六月十九日自首致候節差出候書面ニ明治六年中ヨリ前記之所ニ於テ炭薪渡世罷在候處退々不如意相成候ニ付親族并庄七ニモ無断ニ同年三

月二十五日妻子召連金策ノ目途有之下總國ヨリ伊勢國ニ罷越云々ト記載致シ右ハ明治九年ト相認メ可申テ同年ト相認メ差出シ申尤自分無筆同様ニ付右書面認方之義ハ縣廳腰掛書役木俣彦六ヲ相頼ニ認貫ヒ候所ヨリ間違出來致申其後明治十年七月二十二日神奈川縣第四課ニテ御調之上口書御讀聞之節モ明治六年三月二十五日妻子召連家出致云々右六年ト申所ニ不心付調印致尙又明治十年七月十四日横濱區裁判所ニ於テ御調ノ節之口書モ明治六年三月二十五日家出ト御讀聞之所右六年ニ不心付調印致疎漏之段ハ奉忍入候得共其實明治九年三月二十五日家出致シ候ニ相違無之就テハ自分家出後明治九年五月二十四日實兄笹岡庄七ヨリ逃亡御訴差出候書面拜見致全ク明治九年三月二十五日家出致シ候ニ相違無之段申上置候所尙又今般御尋ニ付相違不申上候以

上

明治十年九月十九日

笹岡庄吉印

右庄吉手痛ニ付

代書

木俣彦六印

右町用掛

香坂宗通印

神奈川縣權令野村靖殿

右ニ據レハ庄吉カ自訴狀ニ同年三月二十五日トアルハ明治九年三月二十五日ニシテ明治九年三月二十五日家出シ明治十年六月十九日歸郷スルモノナレハ其當時ニ在テハ改定律例第二百十條官廳ニ陳告セスシテ私擅ニ他管ニ出テ五十日ヲ過ル者ハ違令重ニ問フトアルニ依リ論シ自首スルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ首免ヲ與フ可キ

モノナリトス然ルニ明治十年十一月二日第七十六號布告ヲ以テ逃亡律例ヲ刪除セラレタリ左スレハ庄吉ニ於テハ今日ニ在テ問フ可キノ罪アル者ニアラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ横濱區裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ大審院ニ於テ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

無罪

笹岡庄吉

第一百十七號

○判文[詐欺取財ノ件]明治十年六月三日上告
明治十年十一月廿七日判決

東京第五大區十小區上

野花園町五番地東京府

士族

飯田信秀

明治十年五月
三十年五月

右信秀儀明治十年五月九日東京裁判所ニ於テ爲シタル口供ノ旨趣左
ノ如シ

自分儀明治九年八月十四日金杉村水上清美方へ相越シ雜話ノ末同
人姉妙秀ナル者金側時計一箇ヲ出シ不用ニ付賣却スヘクト時計職
ノ者ニ見セタルニ餘リ廉價ニ付未タ賣拂ハサル旨申テ聞キ不圖不
良心ヲ生シ自分買求メ度尤機械損シ居ルニ付修覆致サスヘク問可
相渡様申賺シ右時計ヲ受取り歸リ神田旅籠町一丁目水野伊和造へ
代金貳拾貳圓貳拾五錢ニ賣拂ヒタリ

明治九年十二月十九日久松町古着渡世朝倉久藏方へ相越シ上楨町
失火ノ節自宅類焼ニ及ヒ家財ハ總テ焼失セシニ付衣類買求メ度間

自宅へ持參スヘキ旨申入レシ所同家雇人池田長吉田子重吉ノ兩人
南部編其外反物古着類數品持來ルテ明治九年十二月二十二日迄ノ
内四度ニ都合三十九品買求メル旨ニテ欺キ取リ代金ハ今般ノ焼失
ニ付陸軍教導團ヨリ月給五百圓前借スルニ付右ニテ相渡ス趣ニ詐
リ置キ内八丈縞一反ハ東黒門町杉田敬一郎ヨリ預テ金五圓借用シ
アル抵當ニ差遣シ仙臺平袴地一反外三品ハ安宅町永田四郎へ仕立
方頼置キ米澤系織引解キ一枚ハ西元町山本文右衛門ヨリ預テ買受
ケ品代金ノ抵當ニ差遣シ縮緬女小袖一枚外拾六品ハ本郷三丁目淺
野彦兵衛へ代金五拾六圓ニ買入シ八丈縞男小袖一枚外五品ハ石川
縣越中國吉原村光明寺住職前田領眞へ差遣シ絹縮襦袢半襟一筋ハ
前文永田四郎妻ニテ差遣シ南京縮緬小袖引解キ一枚外十一品ハ
淺草西三筋町溝口恆へ預ケ置キ花形敷物一枚外三品ハ下谷金杉上

町林源兵衛へ代金五圓貳拾五錢を質入シ右質代金及ヒ賣拂代ハ其時々酒食ニ費用シタリ

右欺取リタル品代積リ貳百五圓四拾三錢ナリ

右ノ口供ニ依リ明治十年五月二十五日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判申

渡シヲ爲シタリ

其方儀朝倉久藏外一人ヨリ衣類其外欺取ル賍金貳百五圓餘ノ科詐欺取財條ニ依リ士族ナルニ付除族ノ上懲役十年申付ル

信秀ニ於テハ右ノ裁判ニ服セス明治十年六月三日大審院へ上告ノ要旨左ノ如シ

自分儀朝倉久藏ヨリ衣類反物等受取タルハ全ク買入レタル品ナル

ニ欺キ取リタルニ陥リタルハ原告朝倉久藏手代重吉外一人ノ者ヨリ偽リノ申立ニ出タルトニ有之則反物等買始メタルハ明治九年十

二月二十一日ノトニシテ其後ハ彼レヨリ通帳ヲ持參メ代料ハ月末ニ受取度ト申聞ニ付其旨約シ置ク所日々多分ノ品ヲ持來リタレトモ自分不用ノ品ハ悉ク差戻シ買取タル品ハ其都度通帳ニ記シ實印ヲ捺シ買取リシヲ明證シ置タリ然ルチ自分欺キ取リタル杯トハ實ニ意外ノトナリ

依テ最初ヨリノ事實ヲ申上ンニ明治九年十二月二十八日ニ至リ久藏雇人重吉ヨリ元第三局へ不都合ノ義ヲ訴出シニ付即チ自分儀同局へ喚出トナリ右始末尋問セラレ、未代料可拂旨被申渡タルコト付御受申上歸宅シ代料ハ速ニ可拂心得ナレ共原告人ヨリ欺キ取リシトノ訴ハ不都合ニ付重吉へ右訴ノ藤ヲ詰問セシ所同人何等ノ答辨モセス逃ケ歸リタル後再ヒ來ラヌ依テ自分ヨリハ使ヲ以テ代金相渡ニ付此使ト同道ニテ受取人可差出旨申入クニ共更ニ來ラサルニ

付其儘拾置タルニ明治十年一月八日ニ至リ再ヒ久藏ヨリ訴タル由ニテ第三局へ自分喚出シトナリ尋問ニ付其事實申立償金可致ト願ヒタルニ採用ナク拘留セラレ猶其後モ屢吟味相成タルニ最初ノ通申立タルハ掛リ官員ヨリ其方今度ノ事件ハ全ク償原ノ罪金ニテ事濟相成ニ付彼是ナク押印可致旨被申論タルニ付熟考セシ處自分儀七十歳餘ノ老母有之殊ニ大病ニテ難儀罷在間只管對面致度心底ニテ汚名ヲ蒙リ後難ヲ受ルヲモ願ニス押印セシ處其後司法省原ノ送ラレ御調ヲ受ケシニ付其由申立タル共終ニ採用セラレス故猶又償金ノ事歎願シタルニ聞届無之故是非ニ及ハス只老母ノ安否ヲ問ヒ度心底ニテ猶モ最初承リシ通り償金ニテ事濟ノ義官員カ申サレシヲ故定テ確實ノコトヲラント竊ニ信セシヲ以テ其事實ニ相違ノコトナレ共押印セシ處豈ニ計ンヤ除族ノ上懲役十年被申渡失望ノ至リ

〇ヲ

ニ付何卒償金被仰付度歎願ス

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルコト左ノ如シ

辨明

凡ソ口供ナルモノハ本人カ陳述セシ所ヲ當該官ニ於テ之ヲ記載シタル上本人へ讀聞カスルコトス其場合ニ於テ本人若シ自ラ陳述セシ所ト其讀聞セラル、所ノ口供ニ於テ毫末モ相違セシ所アルニ於テハ其相違セシ事實ヲ陳述シ之カ改正ヲ求ムヘキニ其儀ナク押印セシハ毫モ相違セサル所アラサルヲ確認セシノ實正ナリトス然レハ信秀ニ於テ朝倉久藏ヨリ衣類反物等ヲ受取リタルハ全ク買取リタルコトノ確實ニシテ詐取リタルニハアラストノ申立ハ相立タストス故ニ東京裁判所ニ於テ賊盜律詐欺取財條官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ストアルニ依リ贓金百貳拾

圓以上士族ナルヲ以テ除族ノ上懲役十年申渡シタルハ不適當ノ裁
判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ東京裁判所ノ裁判ヲ破毀ス可キ理由ナキニ依リ
上告狀却下スル者也

第一百十八號

〇判文喚出不參ノ件 明治十年九月十五日上告
明治十年十一月廿七日上告

神奈川縣第一大區一小
區橫濱真砂町二丁目三
十四番地濱松縣士族

高橋親義

明治十年九月
二十二年十月

右親義儀橫濱居留地二十九番館〔エツチアーレンス〕社中へ掛ル瓦斯燈
柱代價請求訴訟一件ニ付明治十年九月六日橫濱裁判所ニ於テ親義ヲ
召喚シ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十年九月五日不參シタル始末ハ其前日明治十年九月四
日病氣届ケ致シタル所全快次第出庭ス可キ命令ナリシ旨申立ルモ
元來九月四日ノ病氣届ケタルヤ醫師ノ容體書モ無之ヨリ裁判所ハ
只之ヲ斥ケタル迄ニテ病氣全快次第出頭ス可キヲ申渡シタル者
ナシ然レハ則チ明治十年九月五日無届ニテ不參シタルヲ明瞭ナル
ニ依リ明治十年太政官第五號公布ニ依リ罰金壹圓五拾錢申付ル
親義ニ於テハ右ノ處斷ニ服セス明治十年九月十五日大審院ニ上告シ
タリ其要旨左ノ如シ

過般來橫濱居留地二十九番館〔エツチアーレンス〕社中ヨリ橫濱太田

黄金町三丁目百五十九番地野田彦三へ相懸り瓦斯燈柱代價請求ノ
 詞訟ヲ起シ即チ自分彦三代理トシテ去ル八月二十二日對審ノ節波
 多野判事補懸リニテ朝比奈判事ヨリ審理ノ際即チ去月五日頃裁判
 及フ可キニ付退テ喚徴ノ沙汰ヲ待テ出頭可致旨確命アリ然ルニ該
 日審理ノ際原告ノ口述并詞訟不審ノ廉ニ於テ大ニ違異アルヲ以テ
 其段陳述ニ及ヒシ所詳細手續書ヲ以テ上申可致命令有之依テ本月
 四日ニ至リ病氣ニ依テ自身出頭成リ難ク不得止乃チ手續書ニ病氣
 届相添へ封書ヲ以テ波多野判事補迄差出セシニ本人ニ有スンハ事
 不辨ヲ以テ可然代人ヲ以テ差出ストモ且ハ病氣全快次第自身出頭
 ノ上差出不可キ旨ニテ右兩書共下附アリタリ故ニ其儘經過セシニ
 則チ去ル六日喚徴ニ付出庭ニ及ヒシ所既ニ前五日ヲ以テ裁判相成
 リ原告人へ裁判狀下附相成リシ由ニテ同日自分ニ於テハ裁判ヲ蒙

リヌリ然ルニ豈計ラシヤ其五日不參ノ廉ヲ以テ即日罰金ノ處分ヲ
 蒙レリ而シテ其罰金申渡書ヲ閱見スルニ病氣全快次第出頭スヘキ
 旨申渡シタル者ナシトアリ且五日不參ノ廉ハ明瞭ナリトアリ然ル
 ニ其出頭ノ事タルヤ敢テ五日ニ於テ必然出庭ノ確命モアテス且喚
 徴ノ狀ヲモ蒙ラスニ不參ノ廉ヲ以テ罰金處分アリシハ自分ニ於テ
 決テ服スルヲ得ス而シテ其病氣届タルヤ五日出頭ノ有無ニ關スル
 モノニ有ラス是レ其病氣ノ届明文ニ於テ明照タリ加ルニ罰金申渡
 書ニ依テ見ルニ病氣全快次第出頭ス可キ旨申渡シタル者ナシトア
 リ然ルニ訴所官吏平井昌弘ニ於テハ明ニ波多野判事補ヨリ命ヲ受
 テ該件申渡シタリトアリ然ラハ裁判官吏トシテ一旦此ノ如キ命ヲ
 下シ罰金申渡ノ際ニ至リ其言包藏スルハ職務上有間敷事ト心得ラ
 レ今回上告ニ及フニ付即チ明細書ヲ捧ルナリ

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

高橋親義カ上告狀中其出頭ノヲタルヤ敢テ五日ニ於テ必然出庭ノ
確命モアラズ且喚徴ノ狀ヲモ蒙ラヌトアルニ因リ横濱裁判所ニ於
テ高橋親義ニ對シ明治十年九月五日ニ裁判所ニ出ツヘキ旨ヲ差紙
ヲ以テ達セシカ又ハ裁判所ニテ口達セシカ横濱裁判所ニ照會セシ
ニ横濱裁判所長代理判事朝比奈閑水ヨリ明治十年十月九日回答ノ
旨趣左ノ如シ

本月八日附テ以テ高橋親義喚徴ノ儀ハ其前日掛リ裁判官ヨリ口
達セシカ又ハ喚狀ヲ送附セシカ何レニモ其受書可有之候間右受
書本紙可差出旨致承知候右出庭日時ハ八月二十五日原被告對審
ノ節口達セシモノニテ對審ノ聞書ニハ記載アレハ別段受書無之

候併シ親義モ右日時出庭ス可キヲ承知セシ證ハ九月六日當人
ヨリ差出シタル始末書ニ昨日洋人「アーレンス」社中ヨリ掛ル件
ニテ出頭可仕ノ所云々ト記載有之候間御回報旁爲念申進候

高橋親義カ九月六日横濱裁判所ニ差出シタル始末書左ノ如シ

昨日洋人「アーレンス」社中ヨリ相懸ル件ニ而出頭可仕候處病氣
ニ依而出頭成リ難ク即チ去ル四日午前書面并病氣御届相呈候處
病氣全快次第出頭可致旨書面並届書下付有之本日御喚徴ノ御差
紙到來出頭仕儀ニ有之候

右朝比奈判事ノ回答書ト高橋親義ノ仕末書トニ依レハ横濱裁判所
ニ於テ親義ニ對シ明治十年九月五日ニ裁判所ニ出頭スヘシト口達
シ而シテ親義ニ於テ明治十年九月五日ニ横濱裁判所ニ出頭ス可
キトノ口達ヲ承認セシ者ナリトス何ントナレハ親義ニ於テ九月五

日ニ出頭ス可キヲ承認セザリシモノナレハ九月六日ニ始末書ヲ差出ス時ニ當リ九月五日ニ出頭ノ命ヲ受ケザリシコ因リ出頭セザリシト記載スヘキ筈ナリトス然ルニ出頭ノ命ヲ受ケザリシトハ記載セスシテ却テ昨五日洋人「アレンソス」社中ヨリ和掛ル件コテ出頭可仕ノ處病氣ニ依テ出頭難成ト記載セシハ是レ親義ニ於テ九月五日ニ出頭ス可キヲ承認セシノ憑據ナリトス左スレハ親義カ九月五日ニ於テ必然出庭ノ確命モアラストノ申立ハ事實ニ相違セシ申立ナリトス又々親義カ上告ニ罰金申渡書ニ依テ見ルニ病氣全快次第出頭ス可キ旨申渡タル者ナリトアリ然ルニ訴所官吏平井昌弘ニ於テハ明ニ波多野判事補ヨリ命ヲ受ケ該件申渡タリトアリト申立ルニ因リ平井昌弘ノ取扱ヒシコヲ審理セシニ横濱裁判所ヨリ差出セシ平井昌弘カ上申書左ノ如シ

明治十年九月四月高橋親義ヨリ病氣ノ趣ニテ以使者書面差出候處判事補波多野殿ヨリ使者ニ而ハ受理致シ難キニ付直ニ本人出頭スルカ或ハ事實病氣ニテ出頭難成候ハ、容体書相添へ相當ノ以代人可差出旨ニテ却下相成ルニ付右ノ趣使者へ申合下付仕候儀ニ御座候

右ノ上申書ニ依レハ親義カ明治十年九月四日病氣届ヲ差出シタル時ニ平井昌弘ニ於テ病氣全快次第出頭ス可シト傳達セシコ有ラサルニ付是又事實ニ相違セシ申立ナリトス左スレハ親義ハ明治十年九月五日横濱裁判所ニ出頭ス可キ口達ヲ受ケ無届不參ヲ爲シタルヲ以テ横濱裁判所ニ於テ明治十年一月太政官第五號布告ニ依リ罰金壹圓五拾錢申付シハ不適當ノ裁判ニ非ストス

判決

八九〇一

右ノ如クナルヲ以テ横濱裁判所ニ於テ親義ニ申渡シタル裁判ヲ破毀
スヘキ理由無キニ因リ上告狀却下スル者也
第百十九號

○判文(賭博ノ件)明治十年十月三十一日上告
明治十年十一月廿九日判決

兵庫縣丹波國氷上郡第

二大區八小區野上野村

平民松之助兄

足立重太郎

明治十年五月
二十八年

兵庫縣丹波國氷上郡第

二大區八小區多利村平

民

高見佐太郎

明治十年九月
二十四年二月

兵庫縣丹波國氷上郡第

二大區五小區小多利村

平民

由良信太郎

明治十年九月
二十五年二月

右三名儀明治十年九月二十八日神戸裁判所管内篠山區裁判所ニ於テ
爲シタル口供左ノ如シ

足立重太郎

九九〇一

自分儀當明治十年六月八日同郡長谷村ニ立越シ其歸途荒木彌八宅
ニ罷越シ候處本名不存馬鹿卵之助和田村稻津金藏數名ノ者等ト金

錢ヲ賭ケ博奕致シ居候ニ付傍觀致シ居リ候所是亦本名不知入船ト
 中者入來リ挨拶致シ候ニ右卯之助不應トテ入船憤怒シ卯之助ヲ打
 擲セント爲ス勢ヒ劇敷ニ付自分ハ其場ヲ逃去リ直ニ歸宅致シ候然
 ル所右入船ナル者却テ卯之助ニ殺傷セラレ候趣所々ニテ承リ驚入
 候處同十年六月二十一日柏原警察署ヨリ御召喚ニ付同署へ出頭候
 所右一件御尋問ニ相成且御調中保責相成自宅ニ相慎ニ罷在候所同
 十年六月二十九日高見佐太郎由良信太郎杉本爲介追々ニ立越シ種
 ヲ雜話ノ末爲介ノ發言ニテ俱々錢ヲ賭ケ博奕致シ居リ候内姓名不
 知顔馴染ノ者二人來リ相加リ俱々勝負致シ居候所同午後第六時頃
 突然巡查衆入來テレ一同驚愕爲介壹人ハ現場御取押相成自分外四
 名ハ其場逃走致シ一時潜伏致居候處所詮其罪難遁ト存シ村組長同
 伴自首仕候事

右賭場ノ博具賭錢等ハ杉本爲介御捕ヘト共ニ御引上ケ相成候趣承
 知仕候事

高見佐太郎
 由良信太郎

自分共儀當明治十年六月二十九日同郡野上野村足立重太郎方へ罷
 越シ候所杉本爲介モ參リ合セ居リ種々雜話ノ末右爲介ノ發意ニ同
 シ佐太郎持參ノ骰子ヲ用テ錢賭ケ勝負致シ居ル内國名住所姓名共
 不存者二名來リ加リ俱々博奕致シ居候所突然巡查入來テレ右爲介
 壹人ハ其儘取押ヘラレ外自分共一同其場逃走致シ潜居又ハ徘徊中
 畢ニ捕獲相成リ候右逃走ノ跡ニテ現場ノ博具賭錢トモ御引揚相成
 候趣承知候事

明治十年九月二十九日篠山區裁判所ニ於テ左ノ裁判申渡シテ爲シタ

足立重太郎

其方儀明治十年六月二十一日以來責付中同十年六月二十九日杉本爲介外四名申合金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十現行捕獲ノ際逃走スルヲ以テ捕亡律罪人拒捕條ニ照シ本罪上ニ二等ヲ加ヘ杖一百可申付處自首スルニ依リ加等ノ罪ヲ宥メ本罪杖八十申付ル

但シ責付内ノ逃走ニ係ルト雖モ罪輕キニ依リ論セス賭場ノ博具賭錢ハ取上ル

高見佐太郎

其方儀明治十年六月二十九日足立重太郎宅ニ於テ同人外四名申合金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十現行捕獲ノ際逃走

スルヲ以テ捕亡律罪人拒捕條ニ照シ本罪上ニ二等ヲ加ヘ杖一百申付ル

但賭場賭錢博具ハ取上ル

田良信太郎

其方儀明治十年六月二十九日足立重太郎宅ニ於テ同人外四名申合金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十現行捕獲ノ際逃走スルヲ以テ捕亡律罪人拒捕條ニ照シ本罪上ニ二等ヲ加ヘ杖一百申付ル

但賭場賭錢博具ハ取上ル

兵庫縣篠山警察署詰九等警部白正一郎右ノ裁判ヲ不當ナリトシ大審院へ上告スル爲メ司法省へ差出シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

前書ノ如ク篠山區裁判所ニ於テ宣告セシ處右ハ官ノ捕獲ヲ恐レ其

場逃走セシ耳ニテ拒捕ノ念ナキハ判然タリ然ルニ罪人拒捕條ニ照シ佐太郎并ニ信太郎ハ加等罪ヲ加ヘ重太郎自首シテ本罪ヲ減等スヘキヲ減セサルハ不當ノ裁判ト見認メタリ

大木司法卿ハ明治十年十月十八日ヲ以テ大審院檢事ヘ達セラレシ旨左ノ如シ

兵庫縣平民足立重太郎外二名犯罪處斷ノ義ニ付同縣九等警部白正一郎ヨリ別紙ノ通り及上告候因テ相當ノ處分可致事

大審院詰兼務檢事犬塚盛巍ハ明治十年十月三十一日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシテ左ノ如シ

捕吏追捕ノ際逃走シテ抗拒ノ情狀ナキ者拒捕律ニ據テ論スヘキモソニアラス足立重太郎ハ逃走ノ後自首スルヲ以テ本罪ニ一等ヲ減シ高見佐太郎外壹名ハ止テ本罪ヲ科スヘキ者トス依テ兵庫縣警部

〇

意見ノ通り篠山區裁判所ノ裁判ハ其當ヲ得サル者トス

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

罪人拒捕條ニ凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒ク者ハ各本罪上ニ二等ヲ加フトアルハ其重ノスル所拒捕ニアリテ逃走ニアラストス且各本罪上ニ二等ヲ加フトアルハ其所犯ノ各罪ヲ指スモノトス故ニ重太郎外二名ノ如キ捕吏ノ追捕ニ際シ逃走セシモ固ヨリ拒捕セシニ非サレハ加等ス可カラサル者トス且重太郎ノ口供ニ一時潜伏致居候處所詮其罪難遁ト存シ自首云々トアレハ重太郎ノ自首ハ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減スヘキ者トス然ルニ篠山區裁判所ニ於テ佐太郎信太郎ハ加等スヘキ犯罪ニアラサルニ本罪ニ二等ヲ加ヘ又重太郎ハ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減スヘキニ唯逃罪

ヲ免シタルハ不法ナル裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ篠山區裁判所ニ於テ爲シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

足立重太郎

右明治十年六月二十一日以來責付中明治十年六月二十九日杉本爲介外四名申合金錢ヲ賭ク博戯ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ所捕吏追捕ノ際逃走スルモ尋テ自首スルヲ以テ改定律例第五十九條官ノ捕獲センコトヲ聞テ自首スル者ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ

懲役七十日

但シ責付内逃走スルモ其本罪無罪ニ歸スルヲ以テ逃走ノ罪

ハ違式輕懲役十日賭博罪ヨリ輕キヲ以テ二罪俱發例ニ依リ論セス賭場ノ博具賭錢ハ取上ル

高見佐太郎
由良信太郎

右明治十年六月二十九日足立重太郎宅ニ於テ同人外四名申合金錢ヲ賭ク博戯ヲナス科雜犯律賭博條ニ依リ

各懲役八十日

但賭場ノ博具賭錢ハ取上ル

第百廿號

○判文(賭博ノ件)明治十年十月六日上告
明治十年十一月廿九日判決

兵庫縣丹波國氷上郡第
一大區三小區新鄉村平

民

野口綱吉

明治十年九月廿四年八ヶ月

兵庫縣丹波國氷上郡第

二大區二小區田路村平

民

上田喜八

明治十年九月三十九年二ヶ月

兵庫縣丹波國氷上郡第

一大區八小區稻繼村平

民

稻次圓三郎

右五名儀明治十年九月二十八日神戸裁判所管内篠山區裁判所ニ於テ

明治十年九月廿六年四ヶ月

兵庫縣丹波國氷上郡第

一大區八小區稻繼村平

民

槌田和助

明治十年九月四十七年一ヶ月

兵庫縣丹波國氷上郡第

一大區三小區稻畑村平

民

徳田安之助

明治十年九月四十年九ヶ月

爲シタル口供左ノ如シ

野 口 綱 吉

自分儀明治十年九月十二日午後十時頃兼テ知ル氷上郡稻繼村稻次圓三郎方へ罷越候處上田喜八徳田安之助外二名ノ者追々相集リ雜談中自分發言シ安之助榮吉所持ノ骰子ヲ以テ丁半ト唱フル錢賭ケ勝負致居候處巡查衆ニ見認メラレ榮吉御召捕ノ際自分外四名俱々逃去リ所々徘徊シ明治十年九月十三日午後三時頃歸村ノ途中兄柳吉ニ連レテ直チニ柿芝御分署へ出頭仕候事

上 田 喜 八

自分儀明治十年九月十二日氷上郡稻繼村兼テ知ル稻次圓三郎方へ午後十時頃罷越候處追々綱吉和助榮吉安之助相集リ雜談中綱吉ノ發言ニ同シ榮吉安之助所持ノ骰子ヲ以テ丁半ト唱フル錢賭ケ勝負致居候處巡查衆ニ見認メラレ明治十年九月十三日午前一時頃榮吉御召捕ノ際自分外四名ニ其場逃去リ所々徘徊中同日正午十二時頃柿芝町ニ於テ御召捕相成候事

稻 次 圓 三 郎

自分儀明治十年九月十二日午後十時頃氷上郡新郷村兼テ知ル野口綱吉來リ居候處追々外四名ノ者相集リ雜談中綱吉ノ發言ニ同シ安之助榮吉所持セシ骰子ヲ以テ丁半ト唱フル錢賭ケ勝負致居候處巡查衆ニ見咎メラレ榮吉御召捕ノ際自分外四名ハ逃去リ字前島ト申野中ニ潛レ居候得共明治十年九月十三日午前九時頃同村和助稻畑村安之助等自分申合セ柿芝御分署へ自首仕候事

梶 田 和 助

自分儀明治十年九月十二日午前十時頃稻次圓三郎方へ罷越候處野

口綱吉上田喜八ハ居合セ赤井榮吉徳田安之助モ相集リ雜談中綱吉ノ發言ニ同シ榮吉安之助所持ノ骰子ヲ以テ丁半ト唱フル錢賭ケ勝負致居候處巡査衆ニ見認メラレ明治十年九月十三日午前一時頃榮吉御召捕ニ相成候際自分外四名ニ逃去リ候得共圓三郎安之助自分申合セ其日午前九時頃柿芝御分署へ自首仕候事

徳田安之助

自分儀明治十年九月十二日午後十時頃兼テ知ル稻次圓三郎方へ罷越候處野口綱吉始メ外三名モ居合セ雜談中綱吉ノ發言ニ同シ赤井榮吉徳田安之助所持ノ骰子ヲ以テ丁半ト唱フル錢賭ケ勝負致居候處巡査衆ニ見認メラレ明治十年九月十三日午前一時頃榮吉御召捕ノ際自分外四名其場逃去リ候得共其日午前九時頃稻次圓三郎梶田和助ト自分三人ニテ柿芝御分署へ自首仕候事

明治十年九月二十九日篠山區裁判所ニ於テ左ノ裁判申渡メテ爲シタ

野口綱吉

其方儀明治十年九月十二日稻次圓三郎宅ニ於テ同人外四人申合金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十現行捕獲ノ際逃走スルヲ以テ罪人拒捕條ニ照シ本罪上ニ二等ヲ加ヘ杖一百申付ル但賭場ノ博具賭錢ハ取上ル

上田喜八

其方儀明治十年九月十二日稻次圓三郎宅ニ於テ同人外四人申合金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十現行捕獲ノ際逃走スルヲ以テ罪人拒捕條ニ照シ本罪上ニ二等ヲ加ヘ杖一百申付ル但賭場ノ博具賭錢ハ取上ル

稻次圓三郎

其方儀明治十年九月十二日野口綱吉外四名申合セ金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十捕獲ノ際逃走スルヲ以テ罪人拒捕條ニ照シ二等ヲ加ヘ杖一百申付クヘク處自首スルヲ以テ加等ノ罪ヲ免シ本罪杖八十申付ル

但博具賭錢ハ取上ル

槌田和助

其方儀明治十年九月十二日稻次圓三郎宅ニ於テ同人外四名申合セ金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十捕獲ノ際逃走スルヲ以テ罪人拒捕條ニ照シ二等ヲ加ヘ杖一百申付クヘク處自首スルヲ以テ加等ノ罪ヲ免シ本罪杖八十申付ル
但博具賭錢ハ取上ル

德田安之助

其方儀明治十年九月十二日稻次圓三郎宅ニ於テ同人外四名申合セ金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十捕獲ノ際逃走スルヲ以テ罪人拒捕條ニ照シ二等ヲ加ヘ杖一百申付クヘク處自首スルヲ以テ加等ノ罪ヲ免シ本罪杖八十申付ル

但博具賭錢ハ取上ル

兵庫縣篠山警察署詰九等警部白正一郎右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年十月六日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

前書ノ如ク篠山區裁判所ニ於テ宣告セシ處右ハ官ノ捕獲ヲ恐レ其場ヲ逃走セシ耳ニテ拒捕ノ念ナキハ判然タリ尙野口綱吉賭博現場逃走スルヲ以テ巡查ヨリ召連出頭方兄柳吉ヘ達置タルモセシニ於

稻次圓三郎

其方儀明治十年九月十二日野口綱吉外四名申合セ金錢賭ケ勝負致
 ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十捕獲ノ際逃走スルヲ以テ罪人拒捕
 條ニ照シ二等ヲ加ヘ杖一百申付クヘク處自首スルヲ以テ加等ノ罪
 ナ免シ本罪杖八十申付ル
 但博具賭錢ハ取上ル

槌田和助

其方儀明治十年九月十二日稻次圓三郎宅ニ於テ同人外四名申合セ
 金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十捕獲ノ際逃走スル
 ナ以テ罪人拒捕條ニ照シ二等ヲ加ヘ杖一百申付クヘク處自首スル
 ナ以テ加等ノ罪ヲ免シ本罪杖八十申付ル
 但博具賭錢ハ取上ル

德田安之助

其方儀明治十年九月十二日稻次圓三郎宅ニ於テ同人外四名申合セ
 金錢賭ケ勝負致ス科雜犯律賭博條ニ依リ杖八十捕獲ノ際逃走スル
 ナ以テ罪人拒捕條ニ照シ二等ヲ加ヘ杖一百申付クヘク處自首スル
 ナ以テ加等ノ罪ヲ免シ本罪杖八十申付ル
 但博具賭錢ハ取上ル

兵庫縣篠山警察署詰九等警部白正一郎右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治
 十年十月六日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要
 旨左ノ如シ

前書ノ如ク篠山區裁判所ニ於テ宣告セシ處右ハ官ノ捕獲ヲ恐レ其
 場ヲ逃走セシ耳ニテ拒捕ノ念ナキハ判然タリ尙野口綱吉賭博現場
 逃走スルヲ以テ巡查ヨリ召連出頭方兄柳吉へ達置タルモ柳吉ニ於

テハ弟綱吉へ漏泄隱避セシムル兄弟ノ情狀ニシテ律ニ於テモ科ス
ヘカラサルモノニ其容隠セス官ノ手宛チ恐レ却テ綱吉チ相諭シ召
連レ出頭スルハ自首法ノ如ク本罪ヨリ可減モノト見込候然ルニ右
綱吉并ニ上田喜八ハ罪人拒捕條ニ照シ加等罪チ加ヘ圓三郎并ニ和
助安之助ハ自首スルチ以テ本罪ヨリ可減ノ處加等スヘカラサルノ
加等罪チ免シタルハ不當ノ裁判ト見認メタリ

大木司法卿ハ明治十年十月十八日チ以テ大審院檢事ニ達セラレシ旨
左ノ如シ

兵庫縣平民野口綱吉外四名犯罪處斷ノ儀ニ付同縣九等警部白正一
郎ヨリ別紙ノ通り及上告候處野口綱吉上田喜八ノ兩人ハ加等セス
シテ止タ賭博本罪チ科シ稻次圓三郎樵田和助徳田安之助ハ聞捕自
首チ以テ論ス可キ者トス因テ求判方相當ノ處分可致此旨相達候事

大審院檢事兼務檢事犬塚盛巍ハ明治十年十月三十一日チ以テ大審院ニ
處分チ求メシヲ左ノ如シ

捕吏追捕ノ際逃走シテ抗拒ノ情狀ナキ者拒捕律ニ問フヘキ者ニア
ラス仍テ野口綱吉外一名ハ止タ本罪チ科シ稻次圓三郎外二名ハ逃
走ノ後自首スルチ以テ本罪ニ一等チ減スヘキ者トス然ルチ篠山區
裁判所ニ於テ拒捕律ニ據テ處斷シタルハ失當ノ裁判ナリトス

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ
辨明

罪人拒捕條ニ凡罪チ犯シテ逃走シ追捕チ拒ク者ハ各本罪上ニ二等
チ加フトアルハ其重ノスル所拒捕ニアリテ逃走ニアラストス且各
本罪上ニ二等チ加フトアルハ其所犯ノ各罪チ指スモノトス故ニ綱
吉外四名ノ如キ捕吏ノ追捕ニ際シ逃走セシモ固ヨリ拒捕セシニ非

サレハ加等ス可カラサル者トス且圓三郎和助安之助等ノ如キ逃走ノ後尋テ自首スルヲ以テ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減スヘキ者トス然ルヲ篠山區裁判所ニ於テ綱吉喜八ハ加等スヘキ犯罪ニアラサルコ本罪ニ二等ヲ加ヘ圓三郎和助安之助ハ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減スヘキニ唯逃罪ヲ免シタルハ不法ナル裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ篠山區裁判所ニ於テ爲シタル裁判ヲ平翻スルノ左ノ如シ

野口綱吉
上田喜八

右明治十年九月十二日稻次圓三郎宅ニ於テ同人外四人申合金錢ヲ

賭ケ博戲ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依リ

懲役八十日

但賭場ノ博具賭錢ハ取上ル

稻次圓三郎

右明治十年九月十二日自宅ニ於テ野口綱吉外四人申合金錢ヲ賭ケ博戲ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處捕吏追捕ノ際逃走スルモ尋テ自首スルヲ以テ改定律例第五十九條官ノ捕獲センコトヲ聞テ自首スル者ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ

懲役七十日

但賭場ノ博具賭錢ハ取上ル

槌田和助
德田安之助

右明治十年九月十二日稻次圓三郎宅ニ於テ同人外四人申合金錢ヲ賭ケ博戯ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處捕吏追捕ノ際逃走スルモ尋テ自首スルヲ以テ改定律例第五十九條官ノ捕獲セシメテ聞テ自首スル者ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ

各懲役七十日

但賭場ノ博具賭錢ハ取上ル

第百廿一號

〇判文(關毆殺)件 明治十年八月十一日上告 明治十年十一月廿九日判決

堺縣河内國丹南郡南野

田村平民

森 田 庄 藏

明治十年四月 三十八年五月

〇ウ

右庄藏カ明治十年四月二十日大坂裁判所堺支廳ニ於テ爲シタル口供

ノ要旨左ノ如シ

一自分儀明治九年八月一日午後七時ノ頃獨ツ飲酒シテ後ヲ門前ニ涼ミ居ル處田井城村ノ名前不知者兩人駈ケ來リ自村副兵長西尾三十郎ノ宅ハ何レナリヤト尋ルニ付何事ナルト問返セシ處我等ハ轟堰水番ノ者ニテ前刻ヨリ北野田村ヨリ多人數立越シ自儘ニ土俵ヲ堰へ入ル、ヨリ田井城村水番ノ者相拒ミ居リ喧嘩ニ相成ハ必定ニ付此旨三十郎へ注進致スナリト申ス故三十郎ノ住居ヲ教へ遣シ置キ自分直ナニ字ホテカキ山へ駈ケ付シ處北野田村ノ者共多人數寄集リ水番田井城村ノ者ト口論致シ居リ既ニ打合ニ相成ル勢ニ付自分モ酩酊ニテ其勢ニ乘シ毆打致セト暴言ヲ發シ傍ニ有之竹棒ヲ拾ヒ取り矢庭ニ誰ト目當タルニ非ス水番田井城村ノ者共ノ中へ投付

ダレハ田井城村ノ方ヨリ其節名氏不知福島彦三郎ナル者突然躍リ
出テ北野田村北井秀次郎ニ組付傍ヨリ誰レ彼レトナク竹及ヒ杭木
等ニテ彦三郎ヲ打擲致シ自分儀モ側ニ居合タル南口直次郎持居ル
棒杭ヲ引取り大勢ト共ニ打擲致シ終ニ彦三郎ヲ打倒シ其場へ棒杭
ヲ捨置キ飯宅致シ追テ該所ニ彦三郎ハ死亡致セシ旨承知致シ悔先
非恐縮罷在タリ

右ノ口供ヨリ明治十年八月六日大坂裁判所堺支廳ニ於テ左ノ裁判
ヲ申渡シタリ

其方儀北野田村ノ者轟堰へ自儘ニ土俵ヲ入ル、ヨリ田井城村水番
ノ者ト爭論ニ相成ル處其方傍ヨリ田井城村ノ者ニ對シ打擲致セト
暴言ヲ發シ剩へ竹ヲ投ケ付ルヨリ福島彦三郎儀北井秀次郎ニ組付
テ西野忠藏其外ト共ニ亂毆シ終ニ彦三郎ヲ死ニ致ス科律例第百七

十六條亂毆シテ人ヲ殺シ傷ノ前後輕重ヲ知ラサル初闘者ヲ以テ論
シ懲役終身申付ル

庄藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年八月十一日大審院ニ
上告シタリ其要領左ノ如シ

自分儀明治九年八月一日午後七時頃晚酌後門前ニテ相涼ニ居リシ
際同八時頃田井城村ノ者一人馳セ來リ問テ曰「戸長ノ宅ハ何レノ所
ニ在ヤ」ト私答ルニ其所ヲ以テシ然リ而テ何等ノ故ナルヲ問同人答
テ曰「田井城北野田兩村ノ人々字ト、口榎ノ井關ニ於テ水論相發シ
到底爭鬪ニ至レリト」因テ自分直チニ駈ケ付見合セシ處概畧百五六
十名馳セ集リ組合或ハ打擲シ殆ト騷擾ニ至レリ其際ニ北野田村ノ
直次郎ナル者三尺計リノ丸竹ヲ携へ居タルヲ見受酒興ニ乘シ其竹
ヲ以テ自分爭論ノ稠人中へ投ケ込ミタル折節右同村坂藤ト申ス者

ニ出會歸宅スヘキ旨勸メラレ同道ニテ該場ヲ立去。其後ノ景況如何相成リシ哉一切辨知不仕爾後三日ヲ過キ堺縣巡査出役ニ相成右其場ニ立會ヒタル次第一應尋子ノ上同郡西ノ新田事務所迄拘引ニ相成前顯ノ顛末明詳尋問ニ付有體上申ニ及ヒシ處自分外十三名堺縣警保課ヘ拘引セラレ其後度々吟味ヲ受ケ掛リ役員ヨリ其方喧嘩ノ人中ヘ竹ヲ投ケタルヤト尋ニ付竹ヲ投ケ込ミシニ相違無之段申答ヘシ處又々尋ニ右様ノ不體裁ナル其方故定メテ彦三郎ヲ打擲セシニ相違無シトノ言ニ付私答テ曰騷擾中其機ニ乘シ竹ハ投ケタルトモ其後間モ無ク歸宅仕リ此ノ儀決シテ無之段上申仕其砌口書讀聞カセラレタレト元來無學文盲ノ農民ニテ誤解仕リシヤ其口書自分上申スル所同様ト存シ爪印シヨリ其後四五日ヲ過キ歸村願出シ處同十月十五日迄村方預ケニ相成同十六日ヨリ入牢本年三月上旬

ノ頃刑事課ヨリ二度引出シ尋問有之前同様ノ儀申上爪印仕其後何ノ調ニ無之ニ付朝夕相待居ル處本月六日引出ノ上豈圖シヤ終身懲役申渡サレ實ニ驚入自分其場ヘ竹ヲ投ケタル罪科ハ免カレサル儀ト先非ヲ悔ミ答杖ノ處刑ハ必スシモ遣レ難キ儀ト深ク恐縮罷在シ處終身懲役ノ罰文中ニ曰喧嘩ノ場所ニテ竹ヲ投付重テ打擲云々ト記載有之タレト自分嚮キニ有體申上タル通り聊カ相違無之且ツ兼テ歸村ノ節承リシ處檢死ノ際彦三郎數十ヶ所ノ疵有之由果シテ然ラハ自分竹ヲ投ケ間モ無ク歸宅仕リ其投ル所ノ竹ニテ數十ヶ所ノ疵アルノ理無之將々北野田村松谷九平次發意ニテ村内ノ人民ヲ煽動シ召仕ノ者ヲ以テ觸示シ貝ヲ鳴ヌヤ夫レヲ相圖トシ一統速ニ取ル可ク旨ヲ通知シ其後鐵ト申者ニ貝ヲ吹カセ呼集メ又同村梅井清六右彦三郎打倒ル、ヲ見鍛ヲ以テ面部ニ傷付ル等ハ確然傳

承仕タリ且其場ノ初闘ニ非サル證タルヤ前顯陳スル如ク多人數馳
セ集リ組合或ハ打擲シ争鬪スルヲ見ルヤ自分酒氣ニ乗シ竹ヲ投ケ
込ミタル儀ニテ何ソ之ヲ初闘トスルノ條理無之儀ト存セリ依テ右
申渡ノ儀不伏ニ付上告ス

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

庄藏ニ於テハ明治九年八月一日夜轟堰へ直チニ駈付ケ見合セシ處
概略百五六十名駈集リ組合或ハ打擲シ殆ト騷擾ニ至リ其際北野
田村ノ直次郎ナル者三尺計リノ丸竹ヲ携へ居タルヲ見受酒興ニ乗
シ其竹ヲ取リテ争論ノ稠人中へ投ケ込ミタル折節同村坂藤ナル者
ニ勸メラレ直ニ其場ヲ立サリ其後ノ景況ハ知ラサル趣ノ申立ニシ
テ庄藏カ水番ノ者へ竹棒ヲ投付ケシキハ既ニ組合或ハ打擲シ争鬪

始リタル後ニシテ且庄藏ニ於テハ曾テ彦三郎ヲ毆打セシト無シト
申立レモ庄藏カ自ラ摺印シタル口供ニ直チニ字ホテカキ山へ駈ケ
付シ處北野田村ノ者共多人數寄集リ水番田井城村ノ者ト口論致シ
居リ既ニ打合ニ相成ル勢ニ付自分モ酩酊ニテ其勢ニ乗シ毆打致セ
ト暴言ヲ發シ傍ニ有之竹棒ヲ拾ヒ取り矢庭ニ誰ト目當タルニ非ス
水番ノ者共ノ中へ投付タルハ其節名氏知ラサル福島彦三郎ナル者
突然躍リ出テ北井秀次郎ニ組付傍ヨリ誰レ彼レトナク竹及ヒ枯木
等ニテ彦三郎ヲ打擲致シ自分モ側ニ居合タル南口直次郎持居ル棒
杭ヲ引取リ大勢ト共ニ打擲致シ終ニ彦三郎ヲ打倒シ云々ノ旨自ラ
供出セリ加之直次郎カ口供中ニ自分所持ノ棒ハ森田庄藏ニ引取ラ
レ云々松次郎口供中ニモ森田庄藏始メ外多人數毆チニ掛ル云々皆
之レト旨趣相符合セリ左スレハ竹棒ヲ投ケ付ケシ時ハ既ニ争鬪始

マリタル後ニシテ且ツ彦三郎ヲ打チシコ無シトノ申立ハ相立サル
 ノ申立ナリトス
 庄藏ニ於テハ梅井清六ナル者右彦三郎打倒ル、ヲ見鐵ヲ以テ面部
 ニ傷付ル等ハ確然傳承シタリ云々申立ルニ依リ清六カ拇印シタル
 口供ヲ聞スルニ誰ノ所有トモ知ラサル小鐵ヲ拾ヒ取毆打マタル場
 所へ立越シタル處追々人数モ散シ人氣モ鎮リ田井城村水番ノ者其
 節名前知ラサル福島彦三郎兩眼下ニ重傷ヲ受ケ東向ニ斃レ絶命致
 シ居ルヲ何心無ク右鐵ヲ死屍ノ咽喉ヨリ面部へ引掛ケ西向ケニ致
 シ置直チニ立退キタル旨記載シアリテ清六カ鐵ヲ以テ彦三郎ノ面
 部ニ傷ケシコトナシトス縱令清六カ彦三郎ノ面部ヲ鐵ニテ傷ケタル
 ニモセヨ彦三郎ハ已ニ絶命セシヨリ後ノコトナレハ庄藏カ初闘ノ罪
 ナ論スルニ於テ更ニ關係無キコトナリトス

庄藏ニ於テハ其場ノ初闘ニ非サル證タルヤ前顯陳スル如ク多人數
 馳セ集リ組合或ハ打擲シ争闘スルヲ見ルヤ自分酒氣ニ乗シ竹ヲ投
 ケ込ミタル儀ニテ何ソ之ヲ初闘トスルノ條理無之儀ト奉存云々申
 立ツレモ庄藏ニ於テハ竹ヲ投込ミタルハ既ニ多衆組合或ハ打擲シ
 争闘スルヲ見ルノ後ナリトノ申立相立サルコトハ上文既ニ辨明セ
 シ如シトス且又北野田村農北井秀次郎カ口供ニ程無ク森田庄藏竹
 ナ以テ其節名前知ラサル田井城村水番福島彦三郎へ投付シ處彦三
 郎自分ヲ目掛ケ組付シヨリ五六名ノ者彦三郎ヲ打擲シ云々トアル
 ニ依レハ最前彦三郎以下ノ者ニ對シ先ツ手ヲ下タセシハ庄藏ナル
 コト明瞭ナリトス左スレハ堺支廳ニ於テ改定律例第七十六條ニ凡
 亂毆シテ人ヲ殺シ傷ノ前後輕重ヲ知ラサル者ハ初闘者ヲ懲役終身
 ニ處ストノ文ニ依リ懲役終身申付タルハ不適當ナル裁判ニアラス

トス

判決

右ノ如クナルヲ以テ大坂裁判所堺支廳ニ於テ森田庄藏ニ申渡シタル
裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第百廿二號

〇判文〔竊盜三犯未決中脱監自首ノ件〕明治十年八月三十日上告
明治十年十一月廿九日判決

愛媛縣讚岐國三木郡原

村平民

吉田善太郎

明治十年八月
廿三年十一月

右善太郎竊盜一件ニ付明治十年八月十六日松山裁判所高松支廳ニ於
テ審結シタル口供左ノ如シ

明治八年八月十七日舊名東縣高松支廳ニ於テ竊盜ノ科ニヨリ杖
六十ニ處セラレ

明治九年七月三日舊香川縣ニ於テ竊盜再犯ノ科ニヨリ杖七十ニ
處セラレ

自分儀明治十年七月四日夜同村人力車挽池田留藏ナル者ヘ申談シ
自分伯父山田郡高野村大島友藏方ニテ一時金融ノ爲メ物品借受ニ
罷越度ニ付乘車爲致吳侯様体面申做シ上田井村字由良山清水神社
馬塚前迄乗車シ歸路モ乗車可致ニ付暫時此場ニ待吳レ候様申聞ケ
置夫ヨリ大島友藏方ヘ恣入油種四俵凡升目壹石三斗盜取往還迄持
出シ留藏待セン處ヘ立戻リ車ヲ爲引同行ニテ右品運送致シ吳レ可
ク旨申聞ケ候處斤目強クシテ積ミ不能ニ付留藏何レヨリガ大八車
一挺挽來リ候ニ付兩人ニテ該車ニ積込ントスル際近邊通ノ者有之

ニ付留獄ヘハ脇方ヘ逃ヘキ段申聞ケ候間其儘立去リ夫ヨリ自分立
 戻リ四俵ノ内壹俵ヲ殘シ置キ三俵丈ケ右車ニ積入レ同郡元山村迄
 挽參リ候處已ニ夜明ケニ及ヒ通行人ニ遭遇スルヲ恐レ右三俵ヲ路
 傍ニオロシ置大八車ハ凡一丁計ヲ隔タル處ニ捨置キ稍々アツテ同
 村人力車挽渡世岡丈助ヲ程能申僞リ山田郡古高松村迄賃錢拾貳錢
 ノ約定ニテ丈助人力車ニ積セ挽行賃ヒ候得共重荷ニ付急速運ヒ兼
 猶丈助モ困リ候由申ニ付不得止又二俵ヲ下シ殘シ二俵ヲ同村姓不
 存梅次郎ト申者ヘ預ケ賃ヒ外壹俵耳同郡春日村土手迄運送致シ折
 柄自分頭痛ニ有之丈助ヲ以テ近邊買主無之哉ヲ聞合サセ候處幸ヒ
 求メ度人有之由ニ付然ラハ住家ニ至ント出途ノ際大八車持主追駈
 來リ被取押坂本分署ヘ護送セラル、際同所門内ニ入ルヤ否看守ノ
 隙ヲ窺ヒ逃走致シ候處高松鶴屋町ニ於テ再ヒ捕押ヲレ入獄申付ラ

レ候

同年同月十九日川中浪吉ノ勸メニ應シ自分共都合六名申合セ誰人
 ノ所持品カハ不存小キ板鐵様ノ物ヲ以テ格子ヲ破毀シ翌二十日夜
 凡三時ノ頃同意ノ者共四名脱檻致シ續テ川西周藏自分兩人ハ跡ニ
 ヲ逃走候處先ノ四名ハ行衛不相知周藏トハ高松内町ニテ相別諸方
 へ潜伏候得共連モ此儘ニテハ不相濟義ト存シ前非ヲ悔悟シ自宅へ
 罷歸リ父柳藏へ事實申述同道ニテ自首仕候尤前顯盜品代積金五圓
 四拾六錢ニ相成候

右ニ付明治十年八月二十二日松山裁判所高松支廳ニ於テ左ノ處斷申
 渡シタリ

其方儀褻ニ再度處刑受ル身分尙ホ改心セズ明治十年七月四日夜山
 田郡高野村大島友藏宅へ忍入油種四俵盜取賍金五圓四拾六錢ノ科

賊盜律竊盜條ニ照シ懲役十年糺尋中脱檻逃走スルヲ以テ本罪上ニ
二等ヲ加フ可キ處追テ自首スルニ付律例第六十一條ニ照シ加等ス
可キ罪ヲ減シ懲役十年申付ル

善太郎ニ於テハ右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治十年八月三十一日大審
院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

曩ニ警察官御糺問ノ節事主大島友藏妻ハ自分姨ナルヲ以テ親族大
島友藏方ニ忍入云々申上假口供ニ摺印セシニ法官ニ於テハ別ニ御
糺問モナク右假口供御讀聞ク異情無之哉ノ旨申聞ケテレ其後罪案
御讀聞ノ節親族ノ文字ヲキニ摺印シタルハ自分ニ於テ過失ナリト
雖モ警察署ヨリ引渡シ後調モ無之假口供ニ依リ罪案ヲ製シタルニ
親族ノ文字ヲ除棄シ眞盜ト裁斷相成ケリ然ルニ親族相盜モ凡盜ト
同一ナレハ異論セキモ若シ親族ハ凡盜ト同一ノ罪ニ非ストセハ法

官ニ於テ別ニ推問モナク罪案ヲ製スルニ警察署ニ於テ爲シタル口
供中親族ノ文字ヲ除棄シタル罪案ニテ處斷相成ケレハ警察署ニ於
テ摺印シタル口供ヲ證據トシ裁判ノ取消ヲ求ムル權利アルモノト
存候然レモ戸主タル友藏ハ他人ナルヲ以テ親族ノ文字除棄サレタ
リト見做スモ其親族ノ間柄等一點ノ御聽斷ナキニ於テハ除棄スヘ
キ理ナシトス果シテ親族ノ情實等御了解ノ上右ノ文字ヲ除棄シ處
分サル、モ自分ニ於テ聊了承シ難シ如何ントナレハ姨母外甥ノ物
品ヲ盜メハ親族相盜ノ律ニ依ルニ必セリ然レハ外甥姨家ノ品物ヲ
盜ムニ姨夫他人ナルヲ以テ凡盜ヲ以テ論スルハ姨ニ輕シ甥ニ重キ
ハ其權衡矛盾ス依テ親族相盜ヲ以テ論スヘキ義ト存候
大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルノ左ノ如シ

辨明

吉田善太郎カ上告ノ旨趣ヲ要スルニ愛媛縣高松警察署ニ於テ爲シタル口供ニハ大島友藏妻ハ自分姨ナルヲ以テ親族大島友藏方ヘ忍入云々ト記シ松山裁判所高松支廳ニ於テノ口供中ニハ親族ノ文字ナクシテ裁判申渡サレタルヲ以テ曩ニ警察署ニテ拇印シタル大島友藏ハ親族タル文字ノアル口供ヲ證據トシ裁判ノ取消ヲ求メ及ヒ姨カ外甥ノ物ヲ盜メハ親族相盜ノ律ニ依ルニ必セリ外甥カ姨家ノ品物ヲ盜ムニ姨夫他人ナルヲ以テ凡盜ヲ以テ論スルハ姨ニ輕ク甥ニ重キハ其權衡矛盾ス依テ親族相盜ヲ以テ論ス可キ義ナリトノ申立ナリトス因テ大島友藏ハ善太郎カ親屬ナリヤ否ヤヲ審理スルニ大島友藏カ明治十年七月二十五日坂元分署ニ差出シタル書面ニ後妻トシテ山田郡新田村川東四郎女ツタナル者ト縁組致候間善太郎ニ則妻ノ甥ニ候ト有リ又々三木郡原村戸長中村清一カ明治十年

○*

七月十四日高松警察署ニ差出シタル書面ニ大島禎三郎友藏ノ舊名ノ妻ハ善太郎母タミノ妹トアリ左スレハ友藏ノ妻ツタト善太郎トハ四等親ナレト友藏ト善太郎トハ五等親外ノ凡人ナリトス因テ之ヲ賊盜律親族相盜條ニ照スニ凡各居五等ノ親財物ヲ相盜ム者ハ凡人ニ一等ヲ減シ四等三等二等ノ親ハ各一等ヲ遞減スト有ルニ依リ若シ善太郎ニ於テ友藏ノ妻ツタノ物ヲ盜ミシナラハ親族相盜條四等親財物ヲ相盜ム者ニ依リ凡人ニ二等ヲ減シ罪ヲ科スルノ法律ナリト雖モ善太郎ト友藏トハ五等親内ニ在ラサルヲ以テ親屬相盜者ト同一ニ論ス可キモノニ非ストス即チ善太郎カ竊取セシ油種子ハ姨ツタカ所有物ニ非スシテ姨夫友藏カ所有物ナルヲ以テ凡人ノ物ヲ盜ミシ罪ナルニ因リ善太郎カ親族相盜ナリトノ申立ハ相立サル申立ナリトス

姨夫他人ナルヲ以テ凡盜ヲ以テ論スルハ姨ニ輕ク甥ニ重キハ其權
衡矛盾云々ノ中立ハ立法ノ權衡ニ付テノ申立ニシテ裁判ノ當否ニ
付テノ上告ニ非ストス本院ハ裁判ノ當否ニ付テノ上告ヲ審理スル
ノ所ニシテ立法ノ權衡ニ付テノ申立ヲ審理スルノ所ニ非サルニ因
リ之カ辨明ヲ與ヘス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十年八月二十二日松山裁判所高松支廳ニ於
テ吉田善太郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ付上告狀却
下スル者也

第百廿三號

○判文(竊盜三犯ノ件)明治十年十月廿九日上告
明治十年十二月十日判決

高知縣土佐國長岡郡西

野地村平民

野村 幾 八

明治十年十月廿二日
五十五年六ヶ月

明治十年十月二十二日高知裁判所ニ於テ爲シタル口供左ノ如シ

明治八年二月十五日於高知縣竊盜及常人盜ノ科ニ依リ杖七十ニ
處セラレ

明治八年四月二十日於前同所竊盜再犯財ヲ得サル科ニ依リ答四
十ニ處セラレ

自分儀再應御處刑ヲ受候ヘ共貧窮ノ餘猶又盜心ヲ生シ明治十年九
月二十四日夜土佐國土佐郡比島村濱田茂右衛門宅軒ニ有之銅兩繩
一本盜取リ同郡廿代町中熊嘉兵衛ヘ代金三圓七拾五錢ニ賣拂ヒタ

明治十年十月一日夜前同郡下知村新町竹村平助宅ノ右同品盜取リ
 前書嘉兵衛へ代金五圓六拾五錢ニ賣拂ヒ右金ハ不殘費用致シタリ
 明治十年十月二日夜土佐郡通丁一丁目傍士久萬次宅ノ屋上ニ登リ
 前同品ヲ盜取ラントスル際誤テ軒下ニ轉ヒ墜遂ニ被差押タリ
 右盜品今般代積金九圓四拾錢ニ相成候
 右ノ口供ニ依リ明治十年十月二十三日高知裁判所ニ於テ左ノ處斷ヲ
 申渡シタリ

其方儀竊盜ノ科ニ依リ再度處刑受ル身分尙改心セス濱田茂右衛門
 方外一ヶ所ニ於テ兩廻盜取ル賍金九圓四拾錢又ハ傍士久萬次方ニ
 テ右同品盜取ラントスル際被差押右科竊盜條ニ依リ三犯ナルヲ以
 テ懲役十年申付ル

幾八ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十年十月二十九日大審院

ニ差出シタル上告狀ノ要領左ノ如シ

今般高知裁判所ニ於テ竊盜賍金九圓以下ノ科竊盜條ニ依リ三犯ナ
 ルヲ以テ懲役十年ニ處セラレシ處明治八年四月二十日高知縣ニ於
 テ竊盜再犯財ヲ得サルノ科ニ依リ處刑ヲ蒙リシハ伊豫國大町在松
 之助ナル者へ自分所持ノ衣類貸遣シ置キ其後松之助ト出會セシコ
 ヨリ右品返却方催促セシ處代金ニテ請取リ吳ノ度且松之助ニ於テ
 金圓請取先キ有之ニ付先方迄同道可致トノ頼談ニ任セ土佐郡蘆野
 村東照宮社地内マテ同道セシニ松之助ハ金圓請取先キニ立越ス趣
 ニテ相分レ右社内へ透入りタルヲ見咎メラレ直ニ逃去ル際兩三人
 透ヒ來リ自分ヲ取押へ區務所へ拘引シ前夜社内ノ金具ヲ盜取リタ
 ル者ニ可有之ト紀問ヲ蒙リタルニ付前件衣類代金請取ル爲メ松之
 助ニ同道セシ次第陳述ス然ルニ拘留セラレ再ヒ訟廷ニ於テ盜業見

張セシニ相違無之旨申聞ケラレ一時服罪ハシタレモ其實前件ノ次
第ニテ松之助ト申合セ竊盜罪ヲ犯シタル事ハ無之由テ竊盜三犯ノ
處刑ニ相成リシハ不服ニ付更ニ至當ノ裁判ヲ希フ

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

上告ノ主點

上告人野村幾八カ請求スル所ノ訴願ハ左ノ條件ナリトス

竊盜再犯財ヲ得サルノ罪ヲ犯セシニ非サル事

辨明

野村幾八ニ於テハ明治八年四月二十日高知縣於テ竊盜再犯財ヲ得
サルノ科ニ依リ處刑受ケタレモ盜罪ヲ犯シタルニ非サル旨申立ル
ト雖モ明治八年四月二十日高知縣ニ於テ結審セシ口供ニ付テ難服
廉アラハ其節申立ヘキニ其儀ナク甘結シ既ニ處刑ヲ受ケ後ニ至

リ竊盜未得財ノ犯罪ニアラストノ上告ハ相立タサルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ高知裁判所ニ於テ野村幾八ニ申渡シタル裁判ハ
破毀スヘキノ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノ也

第百廿四號

○判文(職務上失錯ノ件)明治十年九月廿六日上告
明治十年十二月十日判決

陸奥國津輕郡弘前茂森

町青森縣士族町用掛

成田俊藏

明治十年九月
四十四年六月

右俊藏儀弘前茂森町住青森縣士族笹多吉ナル者賭博ノ犯罪ニヨリ明
治十年六月二十五日弘前裁判所ニ於テ禁獄八十日ニ處セラレシ處多

吉カ家ニ年七十三ノ祖母在テ他ニ侍養ノ者居ラサルヲ以テ隣人小山内熊五郎松山嘉一郎ヨリ存留養親ノコトヲ出願セントスルニ既ニ他家ニ嫁シタル多吉カ妹ノ未タ送籍ヲ爲サ、ルアツテ願立ルニ差支ルトテ熊五郎外壹名ニ於テ其妹ヲ病氣ト詐爲シタル存留養親ノ願書ニ俊藏カ曾テ其詐情ヲ知ラス輒ク連印ヲ捺シ明治十年八月四日青森縣廳ニ差出セシ後事發覺セシニ付明治十年九月三日俊藏ヨリ弘前裁判所ニ差出シタル始末書ノ要領左ノ如シ

自分儀明治十年六月二十五日茂森町笹多吉儀博奕ノ科ニ依リ禁獄申付テシタルニ付同町小山内熊次郎松山嘉一郎ヨリ多吉ノ祖母存留養親ノ儀願出ニ付事實相違無之哉相尋シ處相違無之旨ニ付連印セシ處今般右兩人吟味ノ處事實相違ノ趣達シニ相成初テ承知右ハ全ク自分取調粗漏ノ段恐入ル

右ニ付明治十年九月十八日弘前裁判所ニ於テ左ノ處斷申渡シテ爲シタリ

其方儀熊次郎嘉一郎ノ兩人ヨリ多吉ヲ侍養セシメシ爲メ多吉妹^ケヲ病氣ト詐リ存留養親願ヒ出ル詐情知ラスト雖モ輒ス^ク調印致ス科改定律例第二百八十八條違式輕ニ問ヒ懲役十日ノ贖罪金七拾五錢申付ル

青森縣九等警部小野武衛ニ於テ右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治十年九月二十六日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要領左ノ如シ

抑成田俊藏ノ小山内熊次郎外壹名ヨリ差出シタル上告不實ノ願書ニ調印シタルヤ町用掛ノ職務ニ有之則青森縣ヨリ頒布シタ^シ町用掛事務章程第五條町村内ノ人民ヨリ出ス處ノ諸願伺届書ハ其事實

相違ナキニ於テハ法ノ如ク連印シ本人ニ附シテ戸長へ差出ス事ト
 アルニ據リタル儀ニテ其調印スルヤ事實相違無キヤチ實際調査ス
 へキチ其儀ナク一應願人ヲ尋テタル而已ニテ實際ノ奈何チ糺サス
 輒スク調印セシ儀ナレハ則有心故造私罪ニ入ル者ニアラスシテ職
 務上ノ失錯ニテ公罪ナルハ一目瞭然タリ然レハ本屬長官ノ見込ニ
 テ官吏懲戒例ニ依リ處分スへキ者ニ付明治九年司法省第十四號達
 ニ照準本屬長官ニ還付スルヲ至當トス然ルチ弘前裁判所ニ於テ改
 定律例第二百八十八條違式輕ニ問ヒ處斷スルハ不當ノ裁判ナリト
 ス因テ上告ス

大木司法卿ハ明治十年十月八日ヲ以テ大審院詰檢事ニ達セラレシ旨
 左ノ如シ

青森縣士族成田俊藏ノ儀ニ付同縣九等警部小野武衛ヨリ別紙ノ通

リ及上告候右ハ昨明治九年六月八日太政官達ニ照據スへキモノト
 ス因テ相當ノ處分可致事

大審院詰兼務檢事犬塚盛巍ハ明治十年十月二十四日ヲ以テ大審院ニ
 處分ヲ求メシ事左ノ如シ

該犯事實ノ調査ヲ遂ケス輕忽ニ不實ノ願書ニ連印スル者職務上ノ
 失誤ニ係ルチ以テ明治九年六月八日太政官^{外番}達ニ基キ本屬長官ノ
 見込ヲ以テ懲戒スへキ者トス依テ青森縣警部小野武衛意見ノ通り
 弘前裁判所ノ裁判ハ其當チ失スルモノト考量ス
 大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

成田俊藏カ小山内熊次郎外一人ノ願書ニ連印セシハ町用掛リ職務
 上ノ失錯ナレハ公罪ニシテ私罪ニアラサルニ因リ犬塚盛巍意見ノ

如ク明治九年八月太政官外達ニ本年四月第三十四號達官吏懲戒例ノ儀ニ付尙又左ノ通相達候事トアル初項ニ備其他種々ノ名義ヲ以テ公事ニ關スル者ハ本屬長官ノ見込ヲ以テ適宜處分スヘシトアルニ照準スヘキ者ナルヲ弘前裁判所ニ於テハ改定律例第二百八十八條ニ據リ裁判シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十年九月十八日弘前裁判所ニ於テ成田俊藏ニ申渡シタル裁判ヲ取消シ青森縣廳ニ於テ處分スヘキ旨達シタルニ付小野武衛ニ於テハ其旨相心得ヘシ

第百廿五號

○判文(竊盜四犯ノ件)明治十年三月三十日上告
明治十年十二月十日判決

神奈川縣相模國大住郡

東田原村二百五十番地

平民卯之助弟

大津 佐太郎

明治九年十二月
二十年四月

右佐太郎儀明治九年十二月二十六日東京裁判所ニ於テ爲シタル口供ノ要旨左ノ如シ

明治五年九月廿八日足柄裁判所ニ於テ竊盜ノ科ニ依リ懲役六十日ニ處セラル

明治七年十一月五日東京裁判所ニ於テ竊盜再犯ノ科ニ依リ懲役九十日ニ處セラル

明治八年十一月廿五日東京裁判所ニ於テ竊盜ノ科兩度ノ前科ヲ包藏シ山口寅吉名前ヲ以テ懲役九十日ニ處セラル

明治九年四月十一日東京裁判所ニ於テ曩ニ包藏セシ竊盜兩度ノ
前科ヲ自首スルヲ以テ其罪ヲ免サル

自分儀右御處刑後貧究ノ餘リ尙ホ惡心ヲ生シ明治九年九月十三日
岡崎町一丁目辻川源次郎宅ニ忍ヒ入り金十二圓木綿女單物外貳品
盜取リ右品ハ同所川ノ中ニ投ケ捨金錢ハ酒食ニ遣ヒ捨テタリ

明治九年九月十七日永島町山田平八宅ニ忍入り金貳圓七拾五錢木
綿男單物外四品盜取リ右品ハ通リ屑屋ニ代金三拾七錢五厘ニ賣拂
ヒ盜金共同斷酒食ニ遣ヒ捨テタリ

明治九年九月十八日蠟殼町往來ニ於テ通行人所持ノ金壹圓紙入共
拘摸シ紙入ハ川ニ捨テ金錢ハ酒食ニ費用セリ

明治九年九月二十六日淺草境内ニテ通行人所持ノ金五圓紙入共拘
摸シ紙入ハ途上ニ捨テ右金ヲ以テ深川黒江町貸座敷石川金次郎方

ニ遊興罷在所捕縛セラレタリ

右盜金品代積リ併テ貳拾二圓貳錢ト相成事

右ノ口供ニ依リ明治十年三月二十九日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判申
渡ヲ爲シタリ

其方儀竊盜ノ科ニ依リ再三處刑受ル後辻川源次郎宅外三ヶ所ニ於
テ衣類金錢盜取ル賍金二拾二圓餘ノ科竊盜條例ニ依リ四犯ナルヲ
以テ懲役終身申付ル

當時東京裁判所詰權中檢事山根秀介右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十
年三月三十日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要
領左ノ如シ

抑犯數ハ自首スルモ首免ヲ與フルノ限ニ非スト雖モ竊盜三犯ノ時
初犯ト詐リテ處刑ヲ受ケ退テ包藏ノ犯數ヲ自首スルヲ以テ免罪ノ

處分ヲ受ケ今又竊盜罪ヲ犯スニ依リ四犯ナリト雖モ曩ニ自首シテ
免罪ノ處斷ヲ經ルヲ以テ當時誤刑ニ屬スルモ再ヒ犯數ニ計ヘ罪ヲ
論スヘカラサルハ瞭然タリ然ルニ首免ヲ與ヘタル犯數ヲ再計シ四
犯ヲ以テ論スルハ裁判法律ニ違フモノトス因テ該裁判ノ破毀ヲ求
ム

大木司法卿ハ明治十年四月七日ヲ以テ大審院檢事ニ達セラレシ旨左
ノ如シ

神奈川縣下相摸國大住郡東田原村平民卯之助弟大津佐太郎竊盜犯
罪處斷ノ儀ニ付東京裁判所詰權中檢事山根秀介ヨリ別紙ノ通及上
告候因テ相當ノ處分可致候條此旨相達候事

當時大審院詰權大檢事岡内重俊ハ明治十年四月十日ヲ以テ大審院ニ
處分ヲ求メシテ左ノ如シ

該犯竊盜四犯ナリト雖モ其三犯ノ時初再二犯包藏セシ罪ハ尋テ自
首スルヲ以テ全免ヲ得タリ然ルニ尙之ヲ加計シ四犯ナリトシテ論
シタルハ山根檢事意見ノ通り東京裁判所ノ裁判ハ不當ナリトス
大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

佐太郎カ明治五年九月二十八日足柄裁判所ニ於テ懲役六十日ニ處
セラレシハ竊盜初犯ノ刑ナリトス明治七年十一月五日東京裁判所
ニ於テ懲役九十日ニ處セラレシハ竊盜再犯ノ刑ナリトス明治八年
十一月二十五日東京裁判所ニ於テ懲役九十日ニ處セラレシハ其實
竊盜三犯ナルヲ以テ懲役十年ニ處ス可キノ犯罪ナルヲ佐太郎ニ於
テ山口寅吉ト氏名ヲ詐稱シ初犯再犯兩度ノ前科ヲ包藏セシヲ以テ
懲役九十日ニ處セラレタリ而シテ明治九年四月十一日東京裁判所

ニ於テ佐太郎カ曩キニ包藏セシ竊盜兩度ノ前科ヲ自首スルヲ以テ
 首免ヲ與ヘタリ凡ソ前科ノ犯數ヲ包藏シ處刑ヲ受ケシ後ヲニ至リ
 其前科ノ犯數ヲ自首スル時ハ首免ヲ與フ可カラサルニ因リ佐太郎
 カ前科ノ犯數ヲ自首セシニ當リテハ本罪竊盜三犯タルヲ以テ更ニ
 懲役十年ニ貼斷シ前決ノ日數懲役九十日ヲ扣除シ懲役九年ト二百
 七十五日ヲ科スヘキ者トス然ルヲ東京裁判所ニ於テ其前科包藏ノ
 罪ニ首免ヲ與ヘタルハ不法ノ裁判ナリトス既ニ不法ノ裁判ナル上
 ハ本件ノ犯罪即チ明治十年三月二十九日ノ處刑ニ於テ佐太郎カ竊
 盜ノ犯數ヲ論スルニハ不法ノ裁判ニ因リテ首免ヲ得タリシ犯數ハ
 之ヲ除棄ス可キ條理ナキニ由リ佐太郎カ明治九年九月十三日以來
 辻川源次郎宅外三ヶ所ニテ竊盜セシハ即チ竊盜第四回ノ犯罪ナリ
 トス故ニ東京裁判所ニ於テ佐太郎ニ對シ竊盜四犯ノ科ニ依リ懲役

終身ト申渡セシハ不適當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ東京裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス

第百廿六號

○判文(翻譯ノ件)明治十年八月四日上告
 明治十年十二月十一日判決

高知縣土佐國吾川郡片岡村岩次長男平民

津野勘次

明治十年七月
 二十四年一ヶ月

右勘次儀明治十年七月三十日高知裁判所ニ於テ爲シタル口供ノ旨趣
 左ノ如シ

自分儀去明治七年二月中土佐國高岡郡宮地村小田傳左衛門長女イ

*婿養子ニ相成居候處明治八年九月中右傳左衛門方ハ離退復籍致
 シ其節「イサ」ハ熟談ノ上自宅へ連レ歸リ自分妻ニ致シ送籍モ相濟居
 候處明治九年四月頃「イサ」實母小田「コウ」病氣ニ付爲見舞可來様申參
 リ折柄自分并ニ「イサ」モ不快ニテ參リ得ス依テ若干ノ日數相立ナ少
 快ノ上右爲見舞「イサ」チ小田家へ差遣シ候處其見舞ノ運カリシチ先
 方ニテ不満ニ存シ候手實母ノ病氣チモ省セシメサルニ付「イサ」チ離
 縁致シ吳候様傳左衛門方ヨリ申來リ其節ハ彼是相談和熟ニ至リ「イ
 サ」元ノ如ク歸宅致シ居候處明治十年四月廿五日ノ頃妻「イサ」義自ラ
 離縁致シ吳候様申聞ケ未タ自分ヨリ返答無之内實家傳左衛門方へ
 立越候ニ付既ニ一男子チモ出生八年三月十日出生致シ居候事故吳々自分
 方へ歸來リ吳レ候様掛合及フト雖モ絶テ承引無之其内「イサ」ノ衣類
 等洗濯ノ爲トテ傳左衛門ニ取戻サレ候ニ付最早先方ニテハ離縁ニ

決定シタル「イ」ニ可有之未タ東西チ分チサル小兒チ見捨テ今更如此
 次第ニ至ルハ無情ノ甚シキ「イ」ニテ此上ハ傳左衛門チ恐嚇セシメ「イ
 サ」チ連レ歸ント存シ込明治十年五月十七日午前第一時頃兼テ自宅
 ニ有之長脇差チ帶シ右傳左衛門方へ到リ兩戸チ押明ケ片岡村勘次
 勝負ニ來リタリト聲掛如此スレハ傳左衛門恐怖シテ逃去へ立入ル
 ニ暗夜無燈何レノケ所ナルチ辨別スル不能只座上チ蹂躪スル内蒲
 團ニ躓キ相仆レ忽然人ノ頭髮手ニ觸ルニ付之チ掴ムニ是傳左衛門
 ニシテ直チ「コ」起キ上リ遁カサント聲掛ナカラ反テ彼ヨリ掴ミ付候
 間素ヨリ前書ノ通り嚇シノ爲メニテ殺意ハ無之候へ共右脇差チ引
 拔キ矢庭ニ振廻スニ兩三次傳左衛門ニ振當リタリト手對へ致セハ
 其儘組倒サレ互ヒニ摑合候際誰共知レス竹ト覺シキ者チ以テ自分
 ノ手或ハ足チ毆タレ刀ハ彼ニ奪ヒ取ラレ候ニ付迎モ勝ツ能ハスト

存シ隙ヲ見合セ逃去歸宅罷在候處明治十年五月十八日勾引ヲ受御
糺シ相成傳左衛門ニハ數ヶ所ノ傷ヲ負ハセ且其節誰共知レサリシ
者ハ高岡郡黒原村平民岡林新藏ニテ同人ニモ亦誤テ貳ヶ所ノ創付
候段忍入候事

右ノ口供ニ依リ明治十年七月三十一日高知裁判所ニ於テ左ノ處斷申
渡タリ

其方儀妻「イサ」離縁致シ呉ル、機申出ル儘同人里方小田傳左衛門方
ニ立越スニ付歸縁致シ呉ル、襟掛合及フト雖モ承引無之ノミナラ
ス右「イサ」ノ着類等取返サル、ニ付已ニ一子モ出生致シ居ルヲ右次
第ニ至ルハ無情ノ甚シキヲ故鞏口傳左衛門ヲ恐嚇シ「イサ」ヲ引連レ
歸ラント存シ所持ノ脇差ヲ帶シ同人方ニ到リ勝負ニ參リタル杯名
乘掛ルニ反テ彼レニ搦付カル、トテ拔刀ヲ振廻シ同人ニ數ヶ所ノ

傷ヲ負ハセ且其際誤テ岡林新造ニモ傷負候段右科二罪俱發例ニ照
シ一ノ重キ闘毆人ヲ刃傷スル者ニ依リ懲役二年申付ル

高知縣九等警部明石富彦ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年八
月四日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ
如シ

妻「イサ」ノ實父小田傳左衛門ヲ刃傷シ且其際誤テ岡林新造ヲ傷セシ
ハ別紙口供ノ通りニ付一ノ重キ闘毆律人ヲ刃傷スル者ハ懲役二年
妻ノ父タルヲ以テ毆傷妻妾律夫妻ノ父母ヲ毆ツ者折傷以上ハ各闘
傷ニ一等ヲ加ヘト云フニ依リ懲役二年半處斷適當ナルニ闘毆律人
ヲ刃傷スル者ニ依リ懲役二年ニ處斷シ其加等セサルハ高知裁判所
ノ處斷不當ナルモノトス因テ上告セリ

大木司法卿ハ明治十年八月廿五日ヲ以テ大審院詰檢事ニ達セラレシ

旨左ノ如シ

高知縣下平民津野勘次犯罪處斷ノ儀ニ付同縣九等警部明石富彦ヨ
リ別紙ノ通り及上告候因テ相當ノ處分可致候條此旨相達候事
檢事犬塚盛巍ハ明治十年八月三十一日大審院ニ處分ヲ求メシテ左ノ
如シ

該犯妻ノ父ヲ刃傷スル者毆傷妻妾律第三項ニ依リ折傷以上ナルヲ
以テ凡闘傷ニ一等ヲ加ヘ論スヘキ者タリ仍テ高知縣警部意見ノ通
リ高知裁判所ノ裁判ハ其當ヲ失スル者トス
大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルテ左ノ如シ

辨明

津野勘次妻「イサ」ノ父小田傳左衛門ヲ刃傷セシ事及ヒ其際岡林新造
ヲ誤傷セシ事ハ二罪俱發ナリトス故ニ新造ヲ誤傷セシハ人命律誤

殺傍人條第一項ニ凡闘毆シテ誤テ傍人ヲ殺傷スル者ハ闘殺傷ニ準
シテ論ストアルニ依テ懲役二年ニ處斷スヘキ者トス妻ノ父傳左衛
門ヲ刃傷セシハ闘毆律毆傷妻妾條第三項ニ夫妻ノ父母ヲ毆ツ者ハ
杖九十折傷以上ハ凡闘傷ニ一等ヲ加フトアルニ依リ懲役二年半ニ
處斷スヘキ者トス左スレハ勘次ノ罪ヲ論スルハ右ノ二罪中一ノ重
キ懲役二年半ニ處斷スヘキ者ナルヲ高知裁判所ニ於テ闘毆シテ人
ヲ刃傷スル者ヲ以テ論シ加等セサリシハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十年七月三十一日高知裁判所ノ裁判ヲ平翻
スルテ左ノ如シ

津野勘次

右妻「イサ」ノ父小田傳左衛門ヲ刃傷スル科闘毆律毆傷妻妾條第三項

ニ夫妻ノ父ヲ毆ツ者折傷以上凡闘傷ニ一等ヲ加ヘトアルニ依リ折傷以上ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役二年半岡林新造ヲ誤傷スル科ハ人命律誤殺傍人條第一項ニ闘毆傷ニ準シテ論ストアルニ依リ懲役二年右ハ二罪俱發ナルニ因リ二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ毆傷妻妾條第三項ニ依リ

懲役二年半

第百廿七號

○判文謀殺ノ件明治十年八月廿八日上告
明治十年十二月十一日判決

福岡縣筑前國早良郡姪

濱村士族

濱 又 三 郎

明治十年八月
三十六年

右又三郎明治十年八月十三日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ爲シタル口供ノ要領左ノ如シ

自分儀明治十年七月十一日ハ當村産神住吉宮祭禮ノ處早朝保長清水藤市ヨリ祭禮入費取立トシテ松井與吉妻ヨシナル者來リシニ付金貳錢相渡セシ處正午十二時頃ヨシヲ以テ右金差戻シ來リシ故如何ノ儀ト存シ清水藤市方へ立越シ相尋シ處昨年自分宅へ雇入置タル源右衛門ノ工役錢モ今ニ不差出ニ付以後村中ノ會同ニ加ヘサル旨申答ルニ付右ハ源右衛門ヨリ差出ス可キモノニシテ雇主ヨリ出金ス可キ筋ニ無之且ツ當日ハ祭日ノ事故一旦差出シタル金ハ穩カニ受取吳レ可ク旨申入ルレトモ一圓承諾セス藤市弟忠吉モ加リ彼是爭論中藤市自分へ對シ種々惡口ヲ吐キタルニ付一時憤怒ニ堪ヘ兼藤市ヲ殺害シ遺恨ヲ晴サント自宅へ馳歸リ所持ノ刀ヲ携ヘ隣家

富永武平方ノ笹垣ヲ越ヘ再ヒ藤市宅ニ至リ土足ノ儘座敷ヘ立入シ
 處藤平ノ誤ハ市並ニ忠吉裏手ニ逃行タルニ付直ニ拔刀追駈ケ行ント
 スル際其場ニ居合セシ吉浦利助等ヨリ差留ラレ始テ短慮ノ所爲ト
 相考ヘ自宅ヘ立歸リ居ル處間モナク巡查ニ拘引セラレタリ
 右ノ口供ニ依リ明治十年八月二十日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ
 裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十年七月十一日村内松井與吉妻ヨシナル者祭禮入費取
 纏トシテ立越スニ付金貳錢相渡ス處間モナク右金差戻來ルヲ以其
 子細ヲ承ラント保長清水藤市方ニ至リ相尋ル處昨年其身宅ニ於テ
 雇置タル雇人ノ工役錢モ不差出ニ付向後村中ノ會同ニ加ヘサル旨
 申向ルヨリ彼是爭論中種々ノ惡口申聞ルヲ一時憤怒ニ堪兼ルトテ
 藤市ヲ殺害セント自宅ニ馳セ歸刀ヲ携再ヒ同人宅ニ立越シ土足ノ

儘座敷ヘ踏込テ藤市親ヒ裏手ニ逃行ヲ追駈行カント拔刀スル科雜
 犯律不應爲ノ重ニ問ヒ懲役七十日士族ニ付閏刑ニ換ヘ禁獄七十日
 申付ル

福岡縣六等警部豐永高義ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年八
 月二十八日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要領
 左ノ如シ

該犯濱又三郎祭禮入費出金ノ義ニ付清水藤市ノ惡口ヲ受クルヨリ
 彼レヲ殺害シ遺恨ヲ晴サント所持ノ刀ヲ携帯シ拔刀追駈セントセ
 シヲ以テ改定律例第六十條ニ問擬スヘキ者ト認メ長崎裁判所福
 岡支廳ヘ及求刑クル處該支廳ニ於テハ之ヲ雜犯律不應爲重ニ問ヒ
 懲役七十日士族ナルヲ以テ閏刑ニ換ヘ禁獄七十日ニ處斷シタリ抑
 不應爲ノ律タル律ニ正條無キモ事理爲ス應カラサル等ノ事ヲ爲ス

者ヲ處スルノ律ニシテ該件ノ如キハ律ニ明文アリ豈之ヲ不應爲ニ問フヘキノ理アラシヤ何トナレハ該犯ノ所爲タル憤怒一時ニ勃興シ臨時殺意ヲ生セシ者ノ如シト雖モ亦タ然ラサルモノアリ凡ソ臨時殺意ヲ生スルト稱スルハ入ニ毆打或ハ壓倒等サレ時機止ム可カラサルノ勢アルヨリ其場ニ有合フ器物等ヲ以テ殺害シ願慮ノ間ナキ者ノ類ニシテ該犯ノ如キハ止ム可カラサルノ勢アルニアラス亦タ其場ニ有合フタル器物ヲ以テ殺害セントセシニ非ス一旦自己ノ宅ニ立戻リ垣ヲ越へ隣家ヲ侵シ再ヒ藤市ノ宅ニ踏込タルモノニシテ稍其時刻ヲ經過シタルハ願慮ノ間ナシト云フ可カラス然レハ則チ謀殺ニシテ謀狀顯跡アルモノナルヲ以テ改定律例第六十條ニ依リ處斷スヘキヲ至當トス然ルチ該支廳ニ於テハ時刻ヲ經過スルト否トチ問ハス一概ニ之ヲ雜犯律不應爲重ニ問ヒタルハ不當ノ裁

判ナルノミナラス該犯ノ口供ニ土足ノ儘座敷へ立入ル處藤平並ニ忠吉ハ裏手ニ逃行クニ付直ニ拔刀追駈行ントスル際其場ニ居合セタル吉浦利助等ニ差留ラレ云々トアリ是ニ依テ之ヲ考フレハ初メ藤市ヲ殺害セントシ藤市ノ宅ニ至リ忽チ心ヲ變シテ藤平ヲ殺害セントセシ者ノ如キモ判文ニ依レハ土足ノ儘座敷へ踏込テ藤市親ヒ裏手ニ逃行云々トアリ依テ求刑書等ヲ檢閱スルニ藤平ナル者其場ニ居合セサルノミナラス亦其姓名ヲ見ス右等ノ如キハ刑ニ輕重ナク敢テ妨ケナシト雖モ畢竟審理ヲ盡サ、ルモノト言フ可シ是該裁判ヲ不當ト認メ上告破毀ヲ求ムル所以ナリ

大木司法卿ハ明治十年九月廿四日ヲ以テ大審院詰檢事ニ達セラレシ旨左ノ如シ

福岡縣士族濱又三郎犯罪處斷ノ儀ニ付同縣六等警部豐永高義ヨリ

別紙ノ通り及上告候因テ相當ノ處分可致事

大審院詰兼務檢事犬塚盛巍代理檢事今中守身ハ明治十年十月十一日
ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシ事左ノ如シ

該犯人ト論争シテ憤怨ヲ懷キ之ヲ殺害セント欲シ自宅ニ歸リ腰刀
ヲ携ヘテ再ヒ其家ニ至リ土足ヲ以テ室内ニ踏込ミ其逃ルヲ追跡セ
ントシテ拔刀スル者謀殺律第三項ニ依テ論スヘキ者トス仍テ長崎
裁判所福岡支廳ノ裁判ハ法律ニ違フ者ト考量ス
大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

濱又三郎カ明治十年八月十三日ノ口供ニ依ルニ又三郎ハ清水藤市
カ悪口ヲ憤リ之ヲ殺スノ念慮ヲ生シ一應家ニ歸リ刀ヲ携ヘ隣家ノ
垣ヲ越ヘ再ヒ藤市ノ宅ニ抵リ土足ニテ席上ニ踏込藤市及ヒ忠吉ノ

○オ

逃ケタルヲ拔刀シ追驅ケ行ントシタルモノナレハ人ヲ謀殺セント
シテ其事ヲ行ヒタルハ明白ナリトス然ル上ハ人命律謀殺條ニ依リ
其罪ヲ論ス可キヲ福岡支廳ニ於テ不應爲重ニ問ヒ禁獄七十日ニ科
斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十年八月二十日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ
濱又三郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ更ニ熊本裁判所ニ於テ審判スヘ
キ旨達シタルニ付豊永高義ニ於テハ熊本裁判所へ求判スヘシ

第百廿八號

○判文(竊盜四犯ノ件)明治十年三月二十八日上告
明治十年十二月十一日判決
高知縣土佐國土佐郡本

町平民

國 常 健 助

明治九年十二月
四十三年六月

右健助儀明治九年十二月二十七日高知裁判所ニ於テ爲シタル口供ノ旨趣左ノ如シ

明治元戊辰年六月九日高知藩ニ於テ竊盜ノ科ニ依リ杖壹百ノ上渡川限西流罪ニ處セラレ

明治元戊辰年十月高知藩ニ於テ御赦令ヲ以片坂限東禁足ニ處セラレ

明治二己巳年十月六日高知藩ニ於テ不法商業致ス科ニ依リ答三十ニ處セラレ

明治四年八月二十日高知藩ニ於テ竊盜ノ科ニ依リ杖七十ノ上徒塲入被申付途中逃走致候事

明治五年十一月十一日高知縣ニ於テ徒塲逃走ヲ企ル科ニ依リ答

三十ニ處セラレ

明治六年五月三十一日高知縣ニ於テ徒塲逃走ノ科ニ依リ杖七十ノ上更ニ準流十年ニ處セラレ

明治七年二月十九日高知縣ニ於テ同囚ノ逃走ヲ首報スルヲ以テ本罪ニ一等ヲ減シ懲役七年ニ處セラレ

明治七年二月十九日高知縣ニ於テ逃走ヲ企ル科ニ依リ棒鎖二日ニ處セラレ

明治七年六月二十四日高知縣ニ於テ同囚ノ逃走ヲ首報スルニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ懲役五年ニ處セラレ

明治七年十二月十日高知縣ニ於テ同囚ノ逃走ヲ首報スルニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ懲役三年ニ處セラレ

明治八年六月二十九日高知縣ニ於テ同囚ノ逃走ヲ首報スルニ依
リ本罪ニ一等ヲ減シ懲役二年半ニ處セラル

明治八年十一月二十六日滿刑ニ付放免セラル

自分儀前顯ノ通御處刑ヲ蒙リ明治八年十一月二十六日放免相成其
後土佐國土佐郡本町高知縣士族今井貞吉方貸長屋ヲ借受ケ爾來傘
職ニ付營業罷在候然ルニ今般土佐國香美郡野市村平民藤村比佐次
儀犯罪有之御召捕相成候處明治九年八月四日午後三時頃土佐國土
佐郡通町二丁目ニテ自分ニ出會會テ懲役場内ニ於テ知人ニ付一應
挨拶ノ上土佐國土佐郡水通町一丁目迄同伴致シ同所ニテ立別ル、
際談合モ有之ニ付土佐國土佐郡本町大石與之助方ニ相待吳候様自
分申聞ルニ付比佐次ハ同所ニ立越シ待合居自分跡ヨリ罷越比佐次
ト竊盜ノ相談ニ及フト雖モ與之助ハ古道具商ニテ店先ニ雜沓密談

難調ヨリ自分宅ニ於テ出會セシコト約シ比佐次ト相分レ同日即チ
明治九年八月四日午後十時頃比佐次儀自分方ニ相越候間竊盜可致
旨自分發意ニ及ヒ同夜土佐國土佐郡玉水新地伊藤龜次方ニ比佐次
俱々忍入自分儀金三圓五拾錢烟管壹本盜取比佐次ハ金五拾錢配
分致シ其餘ハ自分配分受候趣ヲ以テ今般尙又御糺問受候得共比佐
次トハ勿論自分壹人立チニテモ盜業相働候儀一切無之事
一明治九年八月四日頃ハ自分病中ニテ土佐國土佐郡本町醫師岡村
景樓ニ診察ヲ受ケ服藥罷在歩行難澁致シ居ルニ付他出等出來候次
第毛頭無之事
一放免後ハ改心ニ基キ專ラ職業勉勵罷在明治九年春頃ト覺ヘ土佐
國香美郡野市村平民藤村比佐次ト兩三度出會候節比佐次ヨリ竊盜
相働クヘク旨申聞候ニ付決テ不宜旨相論スト雖モ承諾不致ニ付強

テ申聞ルナラハ其筋へ訴出へク旨相答候故歟明治九年舊曆五月頃
ヨリト覺へ比佐次儀更ニ不相越候ニ付別段比佐次ヨリ怨ヲ受候覺
ハ無之候得共前顯盜業ノ儀ハ比佐次ノ誣告ニ出テ全ク不實ニ有之
事

一明治九年十二月二日糾問係リ訟庭ニ於テ烟管壹本御見セ相成ル
節再應相改候得共覺無之ニ付決テ自分所持セシモノニ非ラサル旨
申立置候然ルニ尙又今般拜見被仰付其入物ノ儀ニ付熟々相考へ候
處右烟管ハ明治八年一月自分懲役中同囚當今死失黒岩兼藏ナル者
ト差引勘定有之烟管壹本受取置候後自分放免ノ節所持ノ文庫歟或
ハ机ノ引出シノ中ニ仕舞置候儘持歸リ候品ニ相違無之前キニ全ク
覺へ之ナク旨申立候儀ハ深ク恐入候將又前書大石與之助並藤村比
佐次ノ口供符合致スニ付明治九年八月八日他出イタサストノ申分

不相立必定比佐次申立ノ通相違無之旨ヲ以テ重々御詰問ヲ蒙リ一
言ノ申披キ無之候得共與之助ナル者ハ面體ヲ知ルノミニテ兼テ懇
意ニ交ルモノニ無之候間縱令右兩名口供符合致シ候トモ自分ニ於
テハ右與之助方へ罷越候儀且盜業致シ候覺決テ無之段強テ申立タ
リ
一烟管ハ自分所持ノ傘道具箱ノ中ニ有之ヲ御引上ケ相成事主伊藤
龜次雇人吉田丑藏へ御見セ相成候處前書藤村比佐次ヨリ申立候通
リ同人被盜品ニ無相違旨申立候趣ヲ以テ御取糺ヲ蒙リ候儀ハ一言
申披キ無之候得共右烟管ハ前書申立候通り黒岩兼藏ナル者ヨリ受
取候品ニ相違無之事

右ノ口供ニ依リ明治十年三月十九日高知裁判所ニ於テ左ノ處斷申渡
シヲ爲シタリ

其方儀竊盜三犯ノ科ニ依リ處刑受ケナカラ尙亦藤村比佐次ヲ申勸
メ伊藤龜次方ニ於テ金錢并ニ烟管盜取ル科證ニ依リ竊盜條例ニ照
シ四犯ナルヲ以テ懲役終身申付ル

健助儀右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治十年三月二十八日大審院へ上告
シタル旨趣左ノ如シ

該件ハ犯罪ノ輕重ニ依テ處斷スルハ勿論ナリト雖モ曩キニ高知縣
土佐國第三大區六小區野市村平民藤村比三次ナル者貧窮ノ餘リ同縣
同國第八大區五小區玉水新地居住伊藤龜次方へ恐入金錢并品物等
盜ニ取タル趣ヲ以テ明治九年第八月捕縛ノ上拘留ト相成以來事實
御糺問是レ有リ候處何タル趣意ニ候哉余輩同伴ノ致シタル趣キヲ
以テ上申ニ及フヨリ同年同月警保課へ呼出サレ何ノ御取糺シモ是
レ無ク拘留ト而已論セラレ候テ聊奉疑或候退テ前書ノ事情御尋問

相蒙リ候得共右藤村比三次ナル者ト竊盜スルハ申スニ及ハス先年
懲役同囚シテヨリ知ル人ニテ同行等仕候儀ハ決テ是レ無ク候段御
對へ申上候處其儘糺問判事へ相渡サレ以後度々鞠問等相蒙リ候ト
雖モ前書ノ舉動渾テ存シ申サスニ就キ奉恐怖譯ケ是レ無ク候然ル
ニ糺問判事ニ於テモ愚昧ノ上申スル所確實相立テ候也依テ口書摺
印等仕リ始終相濟候上ハ無罪ハ顯然ト存シ居候處豈計ラシヤ本年
三月十九日高知縣^原ノ裁判所ニ於テ前書伊藤龜次方ニ於テ金錢並
烟管盜取科證ニ依リ竊盜條例ニ照シ四犯タルヲ以テ懲役終身申シ
付ラレ奉驚愕候然ルニ其證ト言フヤ前ニ訟庭ニ於テ古キ烟管ヲ以
テ予ニ知リタルヤト相促シ候得共見馴レヌ烟管ニツキ知ラサル旨
上申仕候處重テ御尋問相蒙リ候ニハ其方所持ノ諸道具箱ニ是レ有
リ候得共知ラサルヤト御不審ニ就テ深ク勘考仕候處文庫并小道具

箱ニ是レ有リ候得共先年懲役中同囚黒岩兼藏ナル者ヨリ右烟管品物代價壹錢ノ方ニ受取リ候得共鹿相成品ニ付不用タルヲ以テ右道具箱へ投込ニ是レ有ル中懲役放免ノ節自宅へ取歸リ其儘サシ置キ是レ有リ候段上申仕候然ルニ彼ノ烟管ヲ以テ前ニ藤村比三次竊盜シタル伊藤龜次方ノ烟管タル由強テ誣告是レ有ルト雖モ前書上申ノ通り懲役所ヨリ取り歸リタル烟管ニ明白シ依テ伊藤龜次召遣イ何某ト對決ノ段ノ屢請フト雖モ許サ、ルハ曖昧糺糊ト存候如何トナレハ余拘留中自宅へ立越サレ小道具箱ヨリ右烟管拾出シ伊藤龜次方ノ烟管ト唱ナニシハ全確證トスルニ足ラス如何ントナレハ余カ請フニ任セテ對決ヲ許シ能ク檢覈ノ上兩人對決討論ノ曖昧タル方ヲ推シテ甲乙ヲ分チ嚴命イ是レ有ル時ハ誰レカ否振ムヘキ對決ヲ許シ覈正スルコ於テハ世上夥敷類品是レ有ル烟管ニ候故強テ壓

スルコト能ハサル故也亦藤村比三次儀前ニ訟庭ニ於テ余ニ對シ全ク誣告ノ儀ト述ルト雖モ官採用是レ無ク趣キ本月十九日懲役所ニ於テ傳聞仕候ヨリ尙確實ヲ得ント搜索致シ候處先年聊恣恨之レ有ル迎一時憤激ノ餘リ迷惑サセント欲シテ誣賤スト雖モ容易ナラサル儀ト後悔致シ前書ノ通り上申スレトモ官許容は無クニ就キ止テ得ス默止シ罷リ在リ候趣キ予ニ於テハ誠ニ以テ遺憾是ニ過キス候前ニ藤村比三次儀余ト同伴ヲ以テ大石與之助方へ立寄り候旨上申シタル趣キニ就キ御糺問相蒙リ候得共決テ覺へ是レ無ク候ニ付其節右比三次ハ申ニ及ハス大石與之助ナル者へモ對決度々請ト雖モ許サ、ルハ前書ノ如キ曖昧糺糊ノ目途至極スル所也今日ニ至リテハ右比三次ノ狡猾ナル舉動而已ナラス官ニ於テモ不精ノ御結局ト奉愚考候誠ニ余輩ニ於テハ先年懲役放免ノ以後先非ヲ悔ヒ謹慎ニ

罷在ル上ハ活計ニ荒ミ明潔ナル身ノ如何ナル不幸ニシテ斯ク危鼠ニ準シク讒爲陷落ヲラシメラル、
ト歎唱收流此事ニ候憐レ憫然ヲ垂レキセラレ更ニ一層覆審ノ御明斷相蒙リ度旨上告セリ。

大審院ニ於テ法理ニ依據シ裁判スルヲ左ノ如シ

辨明

第一條

高知裁判所ニ於テ伊藤龜次召遣ト對決ノ儀ヲ請求スレトモ許サ、ルハ曖昧糺糊ナリト申立レトモ對決ヲ許スト許サ、ルハ裁判官ノ權内ニシテ本人ノ請求ニ依テ之ヲ許スヘキ筋ニ無之左スレハ對決ヲ許サ、ルトテ曖昧糺糊ノ審判ト爲ヲ得ス又明治九年十一月二十八日事主伊藤龜次雇人吉田丑藏カ高知裁判所ニ於テ拇印ヲ爲シタル口供中ニ右烟管吸口富士山松ノ摸樣アリ長サ壹寸五分雁首ニ

半月ノ摸樣アリ長サ壹寸計有ハ拜見被仰付候處吸口雁首ノ場合ニ儘ニ見覺ヘ有之トアリ明治十年二月九日藤村比佐次カ高知裁判所ニ於テ拇印ノ口供ニ明治九年八月四日夜本町國常健助ノ發意ニ從ヒ玉水新地伊藤龜次方ヘ忍入り自分ハ土間ニイミ相待居タル處健助儀金三圓五拾錢烟管壹本盜取タル趣申聞逃中途中北奉公人町ニ於テ銅錢凡五拾錢配分受ケタル處今般御調ノ上事主伊藤龜次申立ニハ其節紛失セシ金拾四圓五拾錢餘外ニ新製貳分金壹ツ烟管壹本ナル趣被仰聞承知致候トアリ右丑藏ト比佐次トノ申立ニ依レハ右烟管ハ丑藏カ所有ニシテ健助カ盜ミ取シノ證ハ判然ナリトス

第二條

藤村比佐次儀訟庭ニ於テ健助ニ對シ全ク誣告ノ旨申聞タレトモ裁判官ニ於テ採用之レナキ趣傳聞スルヲ以テ尙ホ搜索セシ處比佐次

儀意恨アル憤激ノ餘リ迷惑サセシカ爲メ誣告爲シタルト雖モ容易ナラサル儀ト後悔シ其段陳述スレトモ裁判官ニ於テ之ヲ許容セサルニ就キ黙止シタリ云々右ハ健助ニ於テハ遺憾是ニ過サル旨申立ントモ健助カ傳聞セシ事并ニ搜索セシ事ニテ何人ヨリ傳聞セシヤ何人ヲ以テ搜索セシヤノ人名ヲモ擧ケサル程ノ證據無キ申立ナルニ依リ右申立ハ相立タサルモノトス

第三條

藤村比佐次同伴大石與之助方へ立寄タル事ハ決テ覺へ無之依テ比佐次及ヒ與之助へモ對決ノ儀請求スト雖モ差許サ、ルハ曖昧糺糊ニシテ獨リ比佐次ノ狡猾ナルノミナラス裁判官ニ於テモ不精ノ結局ト存スル旨申立ントモ明治十年十一月十八日大石與之助カ高知裁判所ニ於テ摺印爲シタル手續書ニ明治九年八月四日午後四時頃

自宅ニ於テ投網損シ直シ罷在ル處藤村比佐次罷越雜談中同時國常健助モ罷越藤村比佐次ト事情不分明ニ候得共暫時咄シ合致居候後兩人共立歸リタリトアリ藤村比佐次カ明治九年十一月廿八日高知裁判所糾問係ニ於テ摺印ヲ爲シタル假口供中ニ明治九年八月四日午後三時頃土佐國土佐郡通丁二丁目ニテ國常健助ニ出會同伴夫レヨリ水道町一丁目ニテ相別レタリ最モ其節國常健助ヨリ談シ合モアレハ本町大石與之助方ニ相待候様申ニ付直ニ同人方へ罷越候處大石與之助ハ投網ヲ繕ヒ居リタリ然ル處與之助ト相談中國常健助店先ヨリ入來リ自分へ嘸々待兼ト挨拶セリ依テ國常健助ト店ニテ竊盜ノ相談ニ及フ云々トアツテ與之助ガ前書手續書ト符合スルヲ以テ見レハ與之助方へハ立寄ラサルトノ申立ハ相立サルモノニシテ裁判官ノ審問ヲ不精ナリト爲ス事ヲ得ス